

すずむし

NO.135

Mar,2000

倉敷昆虫同好会

岡山県初記録のハバチ 2種

篠原明彦*・奥島雄一**

1. アシキイロハバチ (ハバチ科)

アシキイロハバチ *Conaspidia singularis* (MALAISE, 1931)は北海道(?)と本州ならびにロシア沿海州から知られているが、全国的にまれな種である。これまでに岡山県からは未記録であったが、筆者らは下記の標本を確認したので、岡山県初記録として報告しておく。

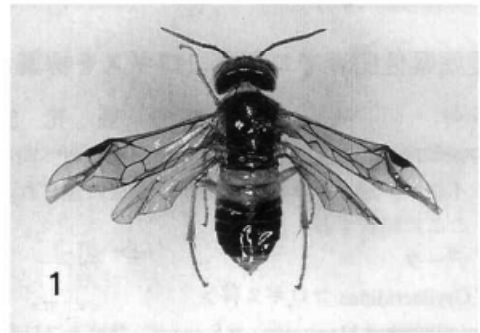
1♀, 新見市秘坂鍾乳穴, 8.VIII.1994, 奥島雄一採集, 国立科学博物館保管 (写真1)

1♀, 加茂町根知, 10.VIII.1990, 野嶋宏一採集, 株式会社ウエスコ保管

本種はSMITH(1874)によって“Hiogo”産の雌に基づいて *Macrophya flavipes* として記載された。その後、MALAISE(1945)は、MALAISE(1931)がロシア極東のVladivostokから記載した *Eriocampa singularis* を本種のシノニムとした。また、佐藤(1933)およびTOGASHI(1984)がそれぞれ「山梨県増富」と「Mt. Hakusan」からの採集記録を発表している。竹内(1932)は「昨年やっと二雌の標本を獲て」と書いているが、採集記録は明らかにしていない。一方、富樫(1965)および阿部・富樫(1989)は本種の分布に北海道を含めロシア極東を含めていないが、その根拠は明らかでない。

本種はこれまで *Conaspidia flavipes* (SMITH, 1874) という名で呼ばれていたが、最近TAEGER & BLANK(1996)は、*Macrophya flavipes* SMITH, 1874が *Macrophya flavipes* TISCHBEIN, 1852の一次新参ホモニムであるこ

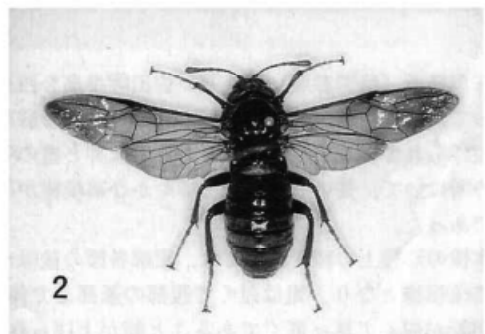
とを指摘し、*Conaspidia singularis* (MALAISE, 1931)を本種の有効名とした。



2. キイロアシフトハバチ (コンボウハバチ科)

キイロアシフトハバチ *Cimbex taukushi* MARLATT, 1898は日本産のハバチ類ではおそらく最大の種で、本州・四国・九州に分布し、寄主であるハンノキ類の周辺で見られるが、少ない。これまでに岡山県からは未記録であったが、筆者らは下記の標本を確認したので、岡山県初記録として報告しておく。

1♀, 八束村下蒜山山頂附近, 24.VII.1999, 奥島雄一採集, 国立科学博物館保管 (写真2)



* 〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1国立科学博物館

** 〒710-0046 倉敷市中央 2-6-1倉敷市立自然史博物館

末筆ではあるが、アシキイロハバチの過去の採集例について調べていただき、記録の公表を快く許された、近藤光宏氏、野嶋宏一氏、斉藤光男氏、舘持康弘氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

阿部正喜・富樫一次, 1989. *Conaspida*. 日本産昆虫総目録 (平嶋義宏監修), p.548.
 MALAISE, R., 1931. Blattwespen aus Wladiwostok und anderen Teilen Ostasiens. Ent. Tidsk., 51 : 97-159.
 MALAISE, R., 1945. Tenthredinoidea of South-eastern Asia with a general zoogeographical review. Opusc. ent. Lund. Suppl., 4 : 1-288 +20 pls.
 佐藤 覚, 1933. 日本産 *Conaspida* 属のハバチに就きて. 昆虫, 7 : 77-78.

SMITH, F., 1874. Descriptions of new species of Tenthredinidae etc. of Japan. Trans. ent. Soc. London, 2(3) : 373-386.
 TAEGER, A. & BLANK, S.M., 1996. Kommentare zur Taxonomie der Symphyta (Hymenoptera) (Vorarbeiten zu einem Katalog der Pflanzenwespen, Teil 1.) Beitr. Ent., Berlin, 46 : 251-275.
 竹内吉蔵, 1932. キコシアカハバチの所属. 関西昆虫学会会報, 3 : 89.
 富樫一次, 1965. ハバチ科 Tenthredinidae. 原色昆虫大図鑑 III, pp.245-252, pls.123-126.
 TOGASHI, I., 1984. The sawfly genus *Conaspida* KONOW in Japan (Hymenoptera : Tenthredinidae). Kontyû, Tokyo, 52 : 580-584.

おとしづみ

愛媛県佐田岬でコバネコロギスを採集

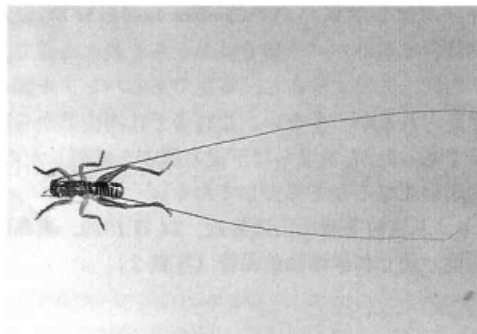
近藤光宏

1999年10月12日。筆者は四国の佐田岬灯台へ向けてドライブ中、運よく本種を採集する機会に恵まれたので、ここに報告する。

データ

<Gryllacrididae コロギス科>

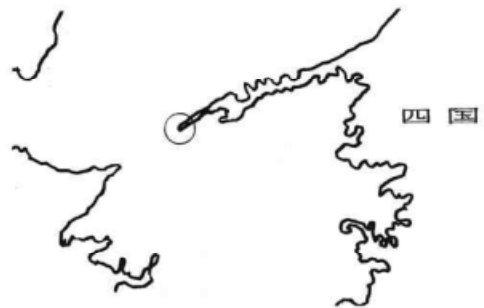
Neanias magnus MATSUMURA et SHIRAKI コバネコロギス
 1♂, 愛媛県八幡浜市三崎町, 12.X.1999, 筆者採集



採集場所 (略図参照) は、長い佐田岬半島を西進しきって、もうこれ以上車では行かない最終の駐車場に設けられている公衆トイレである。天井と壁の丁度境の所において、長いアンテナと鮮やかな縞模様が印象的であった。

本種の形態上の特徴としては、腹部各節の後縁が黒くて縞模様となり、翅は短くて腹部の基部まで伸び、産卵管が短くて真っ直ぐであること等が上げられる。

ちなみに野沢 (1988) には、腹部各節の後縁が「白」となっているが、これはどうやら「黒」の間違いと思われる。



○ … コバネコロギス採集地点

本邦にはコロギス科の昆虫は本種の他にハネナシコロギス及びコロギスを合わせて3種類が分布しているが、本種の分布は本州・四国・石垣島・西表島；台湾とされており、コロギス、ハネナシコロギスより南寄りに分布するようである。

なお、岡山県の状況を見ると、ハネナシコロギス及びコロギスの2種が産することは確認されているが、コバネコロギスは未記録である。

参考文献

野沢 登, 1988. 学研生物図鑑 昆虫III, p.318. 学習研究社, 東京.
 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦 勇, 1987. 原色日本昆虫図鑑 (下), p.58. 保育社, 大阪.
 (〒710-0046 倉敷市中央2-6-1, 倉敷市立自然史博物館)

児島半島のゼフィルス2種の調査記録

中村 具見*

児島半島の金甲山周辺地域に分布しているゼフィルスのうち、近年その生息が確認されたウラゴマダラシジミ及びウラムシジジミについて、前報(中村, 1998)で筆者の調査結果を報告し、その中で、岡山県の南端部、瀬戸内海に面した半島部の低山地に両種の生息地が点在していること、またウラゴマダラシジミについては黒化型が出現するなど四国地方に類似した変異傾向が認められることを指摘した。

今回は、引き続きその後の両種の調査結果を報告することとした。いずれも筆者採集又は飼育によるもので、得られた標本も筆者が保管している。

1. ウラゴマダラシジミ

【黒化型♀からの人工採卵による飼育結果】

1998年に採集した玉野市大藪産の1♀(黒化型—中村(1998)で図示した個体)から人工採卵を試みたところ、計35卵を得ることができた。これを飼育した結果、1999年5月6日から5月14日にかけて計21頭が羽化した。母チョウは野外産の交尾済の個体であり、また被検個体数も少ないが、一応参考までに得られた型別の個体数(比率)を次のとおり記録しておく。

(頭, %)

区分	正常型(率)	黒化型(率)	計(率)
♂	3 (30.0)	7 (70.0)	10 (100.0)
♀	2 (18.2)	9 (81.8)	11 (100.0)
計	5 (23.8)	16 (76.2)	21 (100.0)

上記のように、この黒化型♀に由来する個体はおおよそ1/4が正常型(写真1, 4)で、3/4が黒化型(写真2, 5)という結果となった。

【調査結果】

次に、1999年の金甲山一帯における調査結果をまとめて報告しておく。

玉野市八浜町見石・歌見(50m), 終令幼虫21exs.(イボタノキ), 24.IV.1999

金甲山西側の児島湖に面した見石地区は、背後の山麓部やため池の周辺にクヌギやナラガシワの多い落葉広葉樹林が広がっており、イボタノキはこうした山裾の樹林内や湿った溪流沿いの林縁などに多く自生して

いる。

幼虫が得られたのは、林縁の開けた場所にある樹高2m前後のやや大きなイボタノキで、半日陰になった下枝の先端部葉裏に静止している個体が多く見出された。また、母チョウの活動する環境とも関係があるのか、特定の木に集中する傾向が認められた。

玉野市八浜町金甲山中腹(200m), 3卵(イボタノキ), 23.I.1999

見石地区の東部にあたる金甲山中腹付近で、林道べりの山側斜面の林縁にあったイボタノキの直径約2cmぐらいの太枝分岐点の裏側で得たもの。道べりの風当たりの強い場所であり、イボタノキもこの付近には少ないため、他にはまったく発見できなかった。

玉野市八浜町金甲山(340m), 終令幼虫3exs.(イボタノキ), 2.V.1999; 45♂1♀, 29.V.1999; 1♂, 30.V.1999; 9♂3♀, 2.VI.1999

金甲山山頂に近い林道波知線沿いの斜面には至るところにイボタノキが自生しているが、食樹が多すぎるせいか、幼虫期の調査はあまりにも効率が悪く、3頭を得たにすぎなかった。



金甲山南側斜面の林道波知線沿い

(1999年6月2日)

ところが、成虫の発生期に改めて訪れたところ、午後になると林道上を飛び交う個体や林縁に沿って定方向を占有飛翔する個体が次々と見られ、短時間に多くの個体を得ることができた。個体数の密度からいっても、県下有数の本種の生息地といってよいであろう。

なお、ここで得られた個体は大部分が正常型であったが、5月29日に採集した計46頭の中に2♂だけ黒化

* 〒719-1134 総社市真壁1048

型(写真3)が混じっていた。したがって、基本的には正常型が優占する地域ではあるが、かなり出現頻度は低いものの黒化型も確実に生息していることが明らかとなった。

玉野市八浜町波知・元波知(90m), 終令幼虫24exs.(イボタノキ), 2.V.1999

前報で報告した金甲山山麓の産地である。成虫はそれほど多く見られないが、幼虫は比較的容易に見えてきた。

この場所でも1998年までに得られた個体は野外産も含めてすべて正常型ばかりであったが、今回得られた幼虫の中から1♀のみ黒化型(写真6)が羽化したので、前述の金甲山の斜面上部と同様、極めて少ないながら黒化型も混在していることが判明した。両産地は標高差が約250mあるが、同じ金甲山の南斜面にあって連続した産地と見なされる地域であり、同様の変異傾向を有する同一の個体群とみられる。

玉野市八浜町波知・庄(60m), 終令幼虫9exs., 前蛹2exs.(イボタノキ), 5.V.1999

集落から谷筋を奥へ入る農道沿いの林縁や畑の脇にあるイボタノキから得たものだが、大部分は寄生されており、わずかに1♀が羽化したに止まった。

玉野市大藪(90m), 1♂1♀, 30.V.1999; 1♂, 6.VI.1999

1998年と同じく、集落の背後の谷筋を奥へつめた付近のため池の周辺で得たもの。今回採集した個体はすべて正常型であるが、前年と同様、黒化型も何頭か目撃している。

玉野市下元川(50-120m), 終令幼虫4exs., 前蛹2exs.(イボタノキ), 9.V.1999; 玉野市下元川(50m), 5♂, 23.V.1999

十禅寺山の北側に位置する谷筋の林道沿いで、ここでもイボタノキは林縁や溪流沿いなどに少なくない。幼虫や前蛹はすべて寄生されていたので、成虫の発生期に再度訪れたところ少ないながら得ることができた。採集した5♂のうち3♂が黒化型(写真7)であった。

玉野市十禅寺山(140m), 終令幼虫4exs.(イボタノキ), 29.IV.1999; 7♂, 30.V.1999; 1♂, 2.VI.1999; 1♂(黒化型), 6.VI.1999

十禅寺山の瀬戸内海に面した南側斜面は、ウバメガシをはじめトベラやアラカシといった常緑広葉樹が多く混じっており、金甲山周辺に比べるとイボタノキはそれほど普通に見られる樹種ではないようで、むしろやや局地的となる。したがって、幼虫・成虫ともにイボタノキがある程度まとまって自生している中腹付近

の道路沿いや谷筋等で得られた。なお、採集個体数は多くないが、1♂のみ黒化型が混じっていた。

[まとめ]

これまでの調査結果から、本種の生息地は児島半島の東部、玉野市と岡山市の境界にある金甲山付近から瀬戸内海に面した十禅寺山付近にかけての玉野市北東部に点在していることが明らかになった。

児島半島を地質的にみると、金甲山の東側から貝殻山方面にかけての丘陵部は東端まで花崗岩が露出しているが、金甲山付近から南部の瀬戸内海に面した十禅寺山及び後神地区付近までは広く古生層地帯となっており、これまでに知られた本種の産地はすべてこれら古生層地帯に含まれている。

古生層地帯は、風化浸食が著しく痩せ地が多い花崗岩地帯に比べると一般に土壌の発達が良いため、植生も常緑及び落葉の広葉樹林が優占した豊かな樹相が見られることが普通である。児島半島においても、気候的には乾燥している県南部にあるにもかかわらず、アラカシやウバメガシ、トベラ、ヤマモモ等の常緑樹に加えて、クヌギやコナラ、ナラガシワといったブナ科の落葉二次林がよく発達しており、イボタノキもこうした樹林の低木層を構成する主要な樹種の一つとして普通に見ることができる。

この付近に本種の生息地が集中して温存されているのも、こうした豊かな植生が残されていることと深く関係しているように思われる。

ところで、倉敷市南部の児島半島から灘崎町を経て児島湖に面した玉野市北部にかけての地域も同じ古生層地帯であり、イボタノキを伴って同様の植生が見られるが、これまでのところ、倉敷市児島稗田町御前道での目撃記録(青野, 1978)を除いてまったく報告はないようである。

筆者も、倉敷市福江の鴨ヶ辻山系をはじめ、同市木見から灘崎町片岡にかけてのタコラ山付近、玉野市八浜町大崎東等いくつかの地点を調査してみたが、場所によってはイボタノキが普通に見られるにもかかわらず、本種はまったく発見することができなかった。

今後さらに調査する必要があるが、仮にこの付近で本種の分布が途切れるとすれば、現に生息する個体群が四国地方と類似の変異傾向を示すこと、及び児島半島が約300年前まで瀬戸内海に浮かぶ島であったこと等を考えると、金甲山周辺に分布するウラゴマダラシジミは岡山県の他の地域とほとんど交流のない地理的にも孤立した個体群と考えられる。周辺地域の産否も含めて今後の課題といえる。

次に、前報でも報告した黒化型について、金甲山を

はじめ新たな産地がいくつか判明したが、これにより、出現頻度に地域的なバラツキはあるものの金甲山周辺から十禅寺山にかけての本種の生息域全体に出現するものと推測される。

これまでの調査結果からみる限りでは、北部の金甲山一帯ではかなり出現頻度が低く、南部よりの瀬戸内海に近い玉野市大藪や十禅寺山方面において相対的に出現率が高くなるように思われるが、この点についても引き続き調査すべき興味のある課題であると考えている。

また、正常型に関して、前報で県内の他の産地に比べ全体的に白化傾向が強いことを指摘したが、♂の青色部についてもより発達し、その結果外縁に沿う黒帯の幅が狭まる傾向が認められるように思う。中には、前翅の第1室付近で外縁まで青色部が拡大して、外縁の黒帯がこの部分で途切れる個体(写真10)も見出すことができたが、こうした個体は他の県内産の個体の中からは見ていない。

2. ウラミスジシジミ

【調査結果】

ウラミスジシジミは、前報で玉野市八浜町見石など4か所の産地を報告した。これらと重複する地点もあるが、以下にその後の調査結果を取りまとめて記録しておくこととしたい。

玉野市八浜町見石・歌見(50m), 1♂, 6.VI.1999

金甲山の西側山麓のクヌギ、コナラ、ナラガシワ等からなる落葉二次林内で得た。時期的にやや早かったせい、この日目撃したのは、ナラガシワの枝先から飛び出した羽化後間もないこの1個体のみであった。

玉野市金甲山山頂(390m), 1卵(アベマキ), 23.I.1999

山頂付近のアベマキ・コナラ等がトンネル状に生えている遊歩道に沿って調査したところ、1卵のみ得られた。この卵から孵化した幼虫は2令後半で死亡したが、体色等から本種であることは確認できた。

玉野市八浜町波知・元波知(90m), 6卵(ナラガシワ), 23.I.1999

元波知集落の背後を通る林道波知線沿いで、荒地に面したナラガシワとクヌギ、コナラが混在した落葉二次林があったので、林縁の手の届く範囲を中心に調査したところ、ナラガシワの樹幹から生えた1~2年枝の休眠芽からのみ得られた。

玉野市後神(20m), 15卵(アベマキ及びコナラ), 16.I.1999

1998年に1♀を採集した後神地区の背後に開けた水

田や畑の奥の山麓部で得たもの。この付近の落葉二次林にはナラガシワは全然なくて、アベマキとクヌギ、コナラが主体の林となっている。卵は、樹林内の樹幹から生えた細枝若しくは樹高2m前後の貧弱な木の手の届く範囲の休眠芽から得られた。

この産地は海岸からそれほど離れていない標高20m程度の地点であり、本種の生息地としては県下で最も低標高の場所と思われる。

玉野市十禅寺山(220m), 3卵(アベマキ及びコナラ), 23.XI.1998

1998年6月に成虫を得た尾根伝いに山頂方面に至る遊歩道沿いの落葉二次林で採卵を試みた。見晴らしの良い瀬戸内海側の斜面は、遊歩道に沿って圃地整備が行われ、低木が伐採されて林内は比較的開けている。こうした環境は、本種の採卵には向いていると思われたが、適当なクヌギやアベマキ、コナラが多いにもかかわらず、卵は少なかった。

【まとめ】

これまでの調査結果から、玉野市八浜町一帯をはじめ、金甲山周辺から十禅寺山方面にかけての各所に生息地が点在していることが判明したことから、玉野市北部の低山・丘陵地帯のクヌギやナラガシワの多い落葉二次林には、ウラゴマダラシジミと同様に広く分布しているものと考えられる。

また、玉野市後神のように海岸に近い低地にも生息地があること、本種は落葉*Quercus*全般にわたり幅広い食性を有していること等から、ウラゴマダラシジミよりもさらに広範に分布している可能性もある。

特に、近隣の地域では倉敷市種松山などの比較的樹相の貧弱な地域からも発見されており、倉敷市南部の児島地区から玉野市北部にかけての地域において、さらに新しい生息地が発見される可能性が高いので今後の調査に期待したい。

3. 訂正

前報の記事(中村, 1998)の中で、筆者の校正ミスにより、データの誤記が判明したので、下記のとおり訂正しておきたい。

a. ウラゴマダラシジミ

図示した黒化型♀(写真2)のデータのうち採集年月日がある黒化型♂(写真1)と同一のように「々」と表示されているが、「28.V.1998」が正しい。

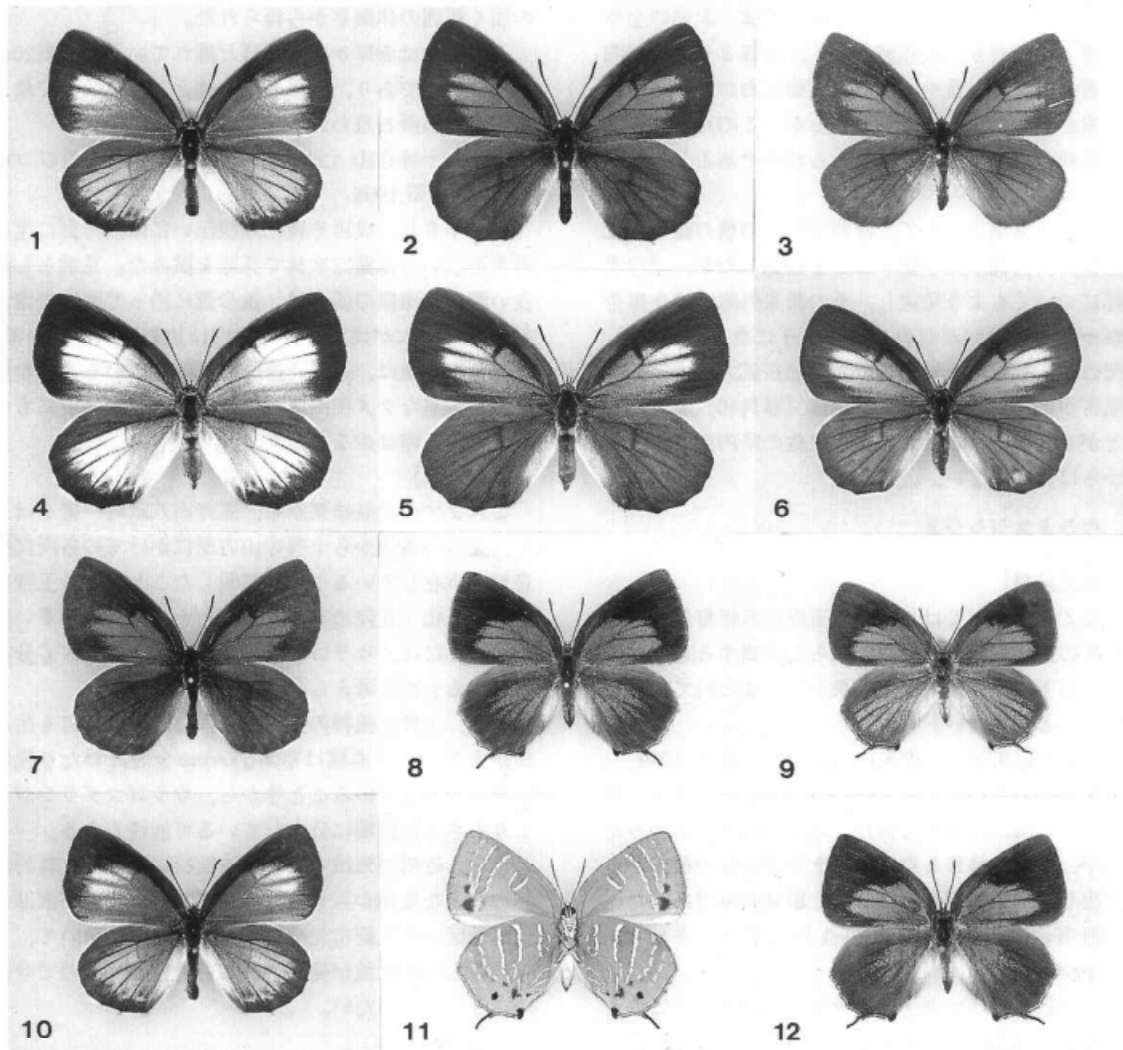
b. ウラミスジシジミ

採集データのうち、玉野市十禅寺山の二つ目のデータ、「1♂1♀, 6.V.1998」は「1♂1♀, 6.VI.1998」が正しい。

引用文献

中村具見, 1998. 児島半島のゼフィルス2種の採集記録, すずむし, (134): 23-24

青野孝昭, 1978. 鴨ヶ辻山系の鱗翅目蝶亜目, 倉敷の自然-鴨ヶ辻山系-, p.56. 倉敷市衛生局環境部, 倉敷



写真説明

1. ウラゴマダラシジミ♂ (玉野市大藪: 1999年5月7日羽化)
2. ウラゴマダラシジミ♂黒化型 (玉野市大藪: 1999年5月7日羽化)
3. ウラゴマダラシジミ♂黒化型 (玉野市金甲山: 1999年5月29日採集)
4. ウラゴマダラシジミ♀ (玉野市大藪: 1999年5月11日羽化)
5. ウラゴマダラシジミ♀黒化型 (玉野市大藪: 1999年5月11日羽化)
6. ウラゴマダラシジミ♀黒化型 (玉野市八浜町波

- 知・元波知: 1999年5月20日羽化)
7. ウラゴマダラシジミ♂黒化型 (玉野市下元川: 1999年5月23日採集)
8. ウラミスジシジミ♂ (玉野市後神: 1999年5月18日羽化)
9. ウラミスジシジミ♂ (玉野市八浜町波知・元波知: 1999年5月23日羽化)
10. ウラゴマダラシジミ♂ (玉野市八浜町見石・歌見: 1999年5月9日羽化)
11. ウラミスジシジミ♂ (写真8の裏面)
12. ウラミスジシジミ♂ (玉野市八浜町見石・歌見: 1999年6月6日採集)

錦海塩田跡地のゴミムシ

山地 治*

筆者はここ数年の間、邑久町と牛窓町にまたがる錦海塩田の跡地で、主にゴミムシ類(オサムシ科、ホソクビゴミムシ科)を採集してきた。

当地は、岡山県大百科辞典(山陽新聞社、1980)によると、古くは長浜湾と呼ばれ当時の海岸線は牛窓町中村、西浦、浜を結ぶ線であった。大正年間に干拓が行なわれ、1956年に着工した邑久町尻海の東部海岸から牛窓町師楽東部に至る2kmの堰堤によって約340haの塩田が造られ、1971年に廃止されたそうである。

現在は堰堤にそって細長い水路(汽水)が残っていて、その周りにはアシ原があり、堰堤との間に残っている湿地には細い水路が幾筋も流れ、アッケシ草の点々と生える粘土質の裸地が広がっている。

堰堤の盛り土の部分では平地に普通に分布する種類が見られるが、湿地の部分ではがらりと変わり、それらの種類はほとんど見ることができない。代わりに塩性の湿地特有と思われる種類が見られるが、個体数はとても少ない。

水生昆虫を採集するために訪れた約15年前には水中には全く昆虫を発見できなかったが、最近になって水路の塩分が少なくなってきているようで、ガムシ科、ゲンゴロウ科の甲虫が多く見られるようになってきている。塩田が廃止されてから、徐々に環境も変化してきているものと思われる。今後も思わぬ種類が記録できるのではないかとと思われるので、多くの分野の研究者に注目して戴きたい場所である。

なお、湖状に残された部分の岸辺は泥状になっている所があり、不用意に近づくと危険である。

終わりに、筆者が当地を再認識するきっかけになったのは、野嶋宏一氏による採集品を戴いたおかげであり、また、笠原須磨夫氏は当地のゴミムシ類について注目され多くの種の同定と助言を戴いた。ここに両氏に感謝申し上げる。

また、渡辺昭彦氏には灯火採集の器具一式を携えて採集に同行して戴き、福田元信氏には記録の報告を快諾して戴いた。共に感謝したい。

報告の中での採集者は、福田元信-F、野嶋宏一-N、渡辺昭彦-W、山地治-Y、と略記している。

若干の種類については標本写真を添付しているが、その番号は種名の前の番号に対応している。

採集地名は錦海塩田跡地の邑久町・牛窓町の境界付近で、特に表記のないものは邑久町側である。

リスト

1. *Scarites terricola pacificus* BATES
ナガヒョウタンゴミムシ
3exs., 20.VII.1995, F(牛窓町側)
2. *Scarites acutidens* CHAUDOIR ホソヒョウタンゴミムシ
1ex., 3.V.1995, Y
4exs., 17.V.1995, Y
1♂, 18.VI.1995, Y
6exs., 20.VII.1995, F(牛窓町側)
1ex., 28.IV.1996, F
1ex., 19.IX.1996, Y
県内からは今まで記録がなかったようであるが、当地では堰堤の盛り土部分でよく見られる。
3. *Trechoblemus postilenatus* (BATES)
アトスジチビゴミムシ
1ex., 23.VIII.1996, Y, 灯火
1ex., 14.VIII.1999, Y, 灯火
2個体とも灯火に飛来してきた。湿地特有の種と思われるが、県内からは今まで知られていなかった。
4. *Tachyura fumicata* MOTSCHULSKY
クリイロコミズギワゴミムシ
1ex., 29.IV.1995, Y
3exs., 23.VIII.1996, Y, 灯火
2exs., 14.VIII.1999, Y, 灯火
5. *Paratachys uenoianus* (HABU)
ウエノコミズギワゴミムシ
1ex., 23.VIII.1996, Y, 灯火
6. *Paratachys sericans* (BATES)
ウスオビコミズギワゴミムシ
4exs., 29.IV.1995, Y
8exs., 23.VIII.1996, Y, 灯火
5exs., 22.VIII.1997, Y, 灯火
3exs., 14.VIII.1999, Y, 灯火
7. *Paratachys sexguttatus* (FAIRMAIR)
オオモンコミズギワゴミムシ

* 〒701-1221 岡山市芳賀5116-11

56exs., 3.V.1995, Y
 1ex., 17.V.1995, Y
 42exs., 14.X.1995, Y
 8exs., 28.IV.1996, Y
 8exs., 3.V.1996, Y
 many exs., 23.VIII.1996, Y, 灯火
 2exs., 24.V.1997, Y
 1ex., 9.V.1998, Y

笠原氏同定。国内では種子島と小笠原から記録のあった種であるが、最近香川県与島でも記録されている。与島の記録は、最初野嶋氏によって採集されたものであるが、筆者の手元に標本が残っていなかったため、データとしてはあげていない。

水際の草の根際や地面のひび割れの間などに隠れている個体を見ることができる。

8. *Paratachys plagiatus shimosae* (TANAKA)

ムツモンコミズギワゴミムシ

2exs., 28.IV.1996, Y
 1ex., 3.V.1996, Y
 1ex., 16.IX.1996, Y

前種に比べ個体数は少なく、全国的にも記録は少ないものと思われる。

9. *Bembidion niloticum batesi* PUTZEY

アトモンミズギワゴミムシ

1ex., 29.IV.1995, Y
 2exs., 23.VIII.1996, Y, 灯火

10. *Asaphidion semilucidum* (MOTSCHULSKY)

メダカチビカワゴミムシ

1ex., 18.VI.1995, Y

11. *Pogonus japonicus* PUTZEYS ハマベゴミムシ

1♂1♀, 20.V.1955, N
 13exs., 28.IV.1996, F·Y
 3♂4♀, 3.V.1996, Y
 3♂1♀, 27.VII.1996, Y
 4♂2♀, 23.VIII.1996, Y, 灯火
 47exs., 22.VIII.1997, Y, 灯火
 1♂, 9.V.1998, Y
 1♀, 25.IV.1999, Y
 1♂, 30.V.1999, Y
 many exs., 14.VIII.1999, Y, 灯火

笠原氏同定。全国的な希種であったが、最近山口県から次種とともに多数記録され、♂交尾器の記載などもされている。次種と共に晴天時に粘土質の裸地上やアッケシ草の間などを走り回り、地面のひび割れや穴、草の根際などにすばやく隠れるのが観察される。夜間も同様な場所を走り回っているのを観

察している。また、灯火にもよく飛来する。

12. *Pogonus itoshimaensis* HABU

ドウイロハマベゴミムシ

1♂1♀, 13.V.1995, N
 1♂, 29.IV.1995, Y
 1♂2♀, 14.X.1995, (土中より)
 33exs., 28.IV.1996, F·Y
 8♂5♀, 3.V.1996, Y
 4♂6♀, 27.VII.1996.Y
 1♂1♀, 23.VIII.1996, Y, 灯火
 2♂2♀, 16.IX.1996, Y
 1♂3♀, 24.V.1997, Y
 6♂1♀, 9.V.1998, Y
 2♂1♀, 30.V.1999, Y
 many exs., 14.VIII.1999, Y, 灯火

笠原氏同定。ハマベゴミムシと混じって見られ、行動も同様である。春に地面に開いた穴の中から顔を出している個体なども見られたが、ただ隠れていただけかも知れない。青色の個体が少数見られる。

13. *Pterostichus sulcicarsis* MORAWITZ

アシミゾナガゴミムシ

1ex., 3.V.1995, Y

14. *Pterostichus fortis* MORAWITZ オオナガゴミムシ

1♀, 22.VIII.1997, Y, 灯火
 1♀, 14.VIII.1999, Y, 灯火

15. *Pterostichus prolongatus* MORAWITZ

オオクロナガゴミムシ

1♀, 17.V.1995, Y

16. *Platynus suavissimus* (BATES) ヒメセボシゴミムシ

2exs., 23.VIII.1996, Y, 灯火
 4exs., 14.VIII.1999, Y, 灯火

本種も記録の少ない種であり、湿地性なのかも知れない。

17. *Platynus magnus* (BATES) オオヒラタゴミムシ

1ex., 25.VI.1999, Y

18. *Platynus chalconus* (BATES)

アオグロヒラタゴミムシ

2exs., 17.V.1995, Y
 2exs., 19.V.1995, Y
 2exs., 9.V.1998, Y

19. *Dolichus halensis* (SCHALLER) セアカヒラタゴミムシ

1ex., 18.VI.1995, Y

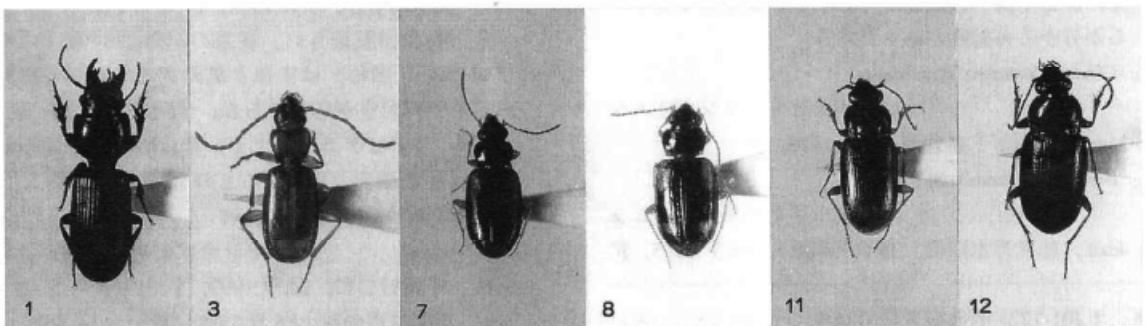
20. *Amara simplicidens* MORAWITZ コマルガタゴミムシ

1♂, 17.V.1995, Y

21. *Amara nipponica* HABU ヒメツヤマルガタゴミムシ

1♀, 17.V.1995, Y

- 1♂1♀, 14.X.1995, Y
 1♀, 3.V.1996, Y
 1♂, 23.VIII.1996, Y, 灯火
22. *Amara macronota ovalipennis* JEDLIČKA
 ナガマルガタゴミムシ
 2♂, 17.V.1995, Y
 1♂, 14.X.1995, Y
23. *Anisodactylus signatus* (PANZER) ゴミムシ
 1♀, 18.VI.1995, Y
24. *Harpalus griseus* (PANZER) ケウスゴモクムシ
 1♂, 23.VIII.1996, Y, 灯火
 1♂, 22.VIII.1997, Y, 灯火
25. *Harpalus jurecki* (JEDLIČKA) ヒメケゴモクムシ
 2♀, 18.VI.1995, Y
 ゴモクムシ類は堰堤の盛り土部分の草の根際に多数見られた。
26. *Harpalus eous* TSCHITSCHERINE オオズケゴモクムシ
 1♀, 18.VI.1995, Y
27. *Harpalus sinicus* HOPE ウスアカクロゴモクムシ
 1♀, 17.V.1995, Y
 4♀, 18.VI.1995, Y
 1♀, 23.VIII.1996, Y, 灯火
 1♀, 22.VIII.1997, Y, 灯火
28. *Platymetopus flavilabris* (FABRICIUS)
 カラカネゴモクムシ
 1ex., 23.VIII.1996, Y, 灯火
29. *Oxycentrus argutoroides* (BATES)
 クビナガゴモクムシ
 1ex., 23.VIII.1996, Y, 灯火
30. *Stenolophus quinquepustulatus* (WIEDEMANN)
 イツホシマメゴモクムシ
 3exs., 23.VIII.1996, Y, 灯火
 1ex., 14.VIII.1999, Y, 灯火
31. *Stenolophus difficilis* (HOPE) ミドリマメゴモクムシ
 2exs., 23.VIII.1996, Y, 灯火
 2exs., 22.VIII.1997, Y, 灯火
- 1ex., 14.VIII.1999, Y, 灯火
32. *Acupalpus inornatus* BATES キイロチビゴモクムシ
 6exs., 22.VIII.1977, Y
 3exs., 14.VIII.1999, Y, 灯火
33. *Stenolophus propinquus* MORAWITZ
 ムネアカマメゴモクムシ
 1ex., 14.VIII.1999, Y, 灯火
34. *Stenolophus iridicolor* REDTENBACHER
 ツヤマメゴモクムシ
 1ex., 29.IV.1995, Y
 9exs., 23.VIII.1996, Y, 灯火
 19exs., 22.VIII.1997, Y, 灯火
 1♂5♀, 14.VIII.1999, Y, 灯火
35. *Anoplogenius cyanescens* (HOPE) キベリゴモクムシ
 1♂, 19.V.1995, Y
36. *Lachnocrepis prolixa* (BATES) トックリゴミムシ
 1♀, 3.V.1995, Y
 1♂, 23.VIII.1996, Y
 1♂2♀, 14.VIII.1999, Y, 灯火
37. *Haplochlaenius costiger* (CHAUDOIR)
 スジアオゴミムシ
 1♂, 17.V.1995, Y
38. *Chlaenius posticalis* MOTSCHULSKY
 キボシアオゴミムシ
 1♂, 17.V.1995, Y
39. *Odacantha aegrota* (BATES)
 チャバネクビナガゴミムシ
 7exs., 18.VI.1995, Y
 16exs., 28.IV.1996, F·Y
 アシ原の中でアシをかき分けると茎上を這っている多数の本種が観察できたが、全く見つからない時もあった。
40. *Lachnolebia cribricollis* (MORAWITZ)
 キクビアオアトキリゴミムシ
 1ex., 3.V.1995, Y
41. *Apristus grandis* ANDREWES



スジミズアトキリゴミムシ

1ex., 14.VIII.1999, Y, 灯火

42. *Pheropsophus jessoensis* MORAWITZ

ミイデラゴミムシ

1ex., 19.V.1995, Y

43. *Brachinus incomptus* BATES ヒメホソクビゴミムシ

1ex., 22.VIII.1997, Y, 灯火

2exs., 14.VIII.1999, Y, 灯火

参考文献

MORITA, S. & K. TERADA, 1998. Notes on the Bembidiinae (Carabidae) of Japan X. The genus *Pogonus*, *Jpn. J. syst. Ent.*, 4(1): 33-38.

豊嶋 弘, 1981. 与島・榎石島の昆虫相(追加). 昭和55年度一般国道30号(香川県側)自然保護環境調査報告書 1981.

岡山県から採集した甲虫類の記録

山 地 治*

岡山県下から採集した甲虫類のうち、記録の少ないと思われる若干の種について報告する。

貴重な採集品を提供され、また、報告を許された竹内幸夫氏、奥島雄一氏、福田元信氏、野嶋宏一氏、渡辺昭彦氏、渡辺和夫氏に感謝申し上げます。また、戴いたりお借りした標本の採集地表記は日本語に統一させて載っている。

学名・和名は原色日本甲虫図鑑Ⅱ～Ⅳに従った。

一部の種に対しては写真を添付したが、その番号は学名の前の番号に対応している。

筆者等採集者名は、福田-F、野嶋-N、奥島-O、竹内-T、山地-Y、渡辺昭彦-AW、渡辺和夫-KW、と略記している。

1. *Carabus maiyasanus* BATES マヤサンオサムシ

1♂, 勝田町右手峠, 19.VIII.1997, F

県内の記録も少しずつではあるが増えてきている。

岡山県は鳥取県と共に分布の西限になっているので、詳しく調べれば分布の縁がどのようになっているか分かる可能性があるだろう。

2. *Clivina castanea* WESTWOOD

ツヤヒメヒョウタンゴミムシ

2exs., 津山市下高倉西, 6.VI.1996, F

3. *Bembidion amaurum* BATES

オオルリミズギワゴミムシ

4exs., 総社市水内橋 (高梁川川原), 11.V.1995, F

14exs., 総社市水内橋 (高梁川川原), 12.V.1996, Y・F

1ex., 総社市水内橋 (高梁川川原), 9.V.1999, Y

3exs., 総社市水内橋 (高梁川川原), 23.V.1999, Y

当地では多く見られたが、他に県内からの記録が見当たらない。

4. *Bembidion bandotaro* MORITA

オオフタモンミズギワゴミムシ

1♂, 総社市水内橋 (高梁川川原), 23.V.1999, Y

1♀, 総社市水内橋 (高梁川川原), 9.V.1999, Y

♂のゲニタリアと触角節の色、翅端紋により同定した。

5. *Bembidion semilunium* NETOLITZKY

フタモンミズギワゴミムシ

1ex., 総社市水内橋 (高梁川川原), 23.V.1999, Y

3exs., 総社市水内橋 (高梁川川原), 9.V.1999, Y

2exs., 総社市水内橋 (高梁川川原), 12.V.1996, Y

2exs., 上斎原村恩原, 10.VI.1990, Y

1ex., 芳井町蛇の穴, 1.V.1994, Y

1ex., 奥津町甘木, 5.VI.1995, F

最近前種が記載され、従来の記録(ツマキミズギワゴミムシ:旧称)は前種と混同されてきたと思われるので再同定が必要である。今回は筆者の採集品のうち、1♂はゲニタリアで、他は触角節と翅端紋での判断で、確実と思われるものを報告しておく。

6. *Bembidion scopulinum* (KIRBY)

キモンナガミズギワゴミムシ

5exs., 中和村初和, 24.VII.1999, Y

1ex., 川上村西の谷, 16.VII.1994, Y

* 〒701-1221 岡山市芳賀5116-11

- 1ex., 新庄村毛無山, 5.VI.1994, N
7. *Bembidion semiluitum* BATES
ハマベミズギワゴミムシ
5exs., 岡山市桜橋(旭川東岸), 2.V.1995, Y
5exs., 岡山市桜橋(旭川東岸), 16.V.1995, Y
9exs., 岡山市桜橋(旭川東岸), 31.V.1995, Y
8. *Bembidion eurygonum* BATES マルミズギワゴミムシ
26exs., 岡山市牟佐(旭川川原), 6.VI.1999, Y
21exs., 岡山市吉井(吉井川川原), 12.VI.1999, Y
2exs., 総社市水内橋(高梁川川原), 7.VI.1996, Y
17exs., 岡山市竹田(旭川川原), 12.VI.1999, Y
旭川・吉井川においては優先種であるが, なぜか記録が少ないので報告しておく。
9. *Bembidion hiogoense* BATES
ヒョウゴミズギワゴミムシ
12exs., 総社市水内橋(高梁川川原), 23.V.1999, Y
1ex., 岡山市吉井(吉井川川原), 12.VI.1999, Y
1ex., 中和村初和, 24.VII.1999, Y
10. *Bembidion lucillum* BATES ハコネミズギワゴミムシ
1ex., 奥津町井坂, 26.VIII.1990, Y
1ex., 総社市水内橋(高梁川川原), 12.V.1996, Y
5exs., 総社市水内橋(高梁川川原), 23.V.1999, Y
11. *Bembidion misellum* HAROLD
ニッコウミズギワゴミムシ
1ex., 加茂町倉見, 1.VII.1989, AW
1ex., 上斎原村山上山, 7.VII.1990, Y
1ex., 中和村山乗山, 8.VII.1990, AW, 灯火に飛来
4exs., 上斎原村三十人ヶ仙, 6.VII.1991, Y
1ex., 川上村蒜山大山道路, 20.VII.1991, Y
1ex., 東栗倉村後山, 31.V.1993, N
12. *Pterostichus dulcis* (BATES) ヒロムネナガゴミムシ
2♂, 八束村東湿原, 12.IX.1994, O
湿地に特有な種類であろう。採集品のうち, 2♂を検した。
13. *Colpodes xestus* (BATES) ツヤモリヒラタゴミムシ
1ex., 新見市秘釜鍾乳穴, 8.VIII.1994, O
他に県内からの記録を見ない。鍾乳洞入り口付近の低温の地域で採集されたと思われ, 孤立した分布をしているのかも知れない。
14. *Trichotichnus lucidus* (MORAWITZ)
ハネグロツヤゴモクムシ
2exs., 鏡野町花知山, 31.V.1964, T
1ex., 中和村初和, 26.VI.1988, Y
1ex., 勝北町奥津川溪谷, 9.V.1998, F
1ex., 加茂町奥津川溪谷, 19.V.1999, F
2exs., 加茂町奥津川溪谷, 8.VII.1999, F
15. *Lanchnocrepis prolixa* (BATES) トックリゴミムシ
1♂, 倉敷市由加山, 12.VI.1993, O
1♂, 津山市綾部(加茂川川原), 16.XII.1995, F
1♂, 津山市綾部(加茂川川原), 31.III.1999, F
1♂1♀, 津山市下高倉西, 11.VI.1996, F
1♀, 津山市下高倉西, 24.VI.1997, F
1♀, 津山市下高倉西, 17.IX.1997, F
1♂, 落合町栗原, 5.XI.1997, F
16. *Oodes heropioides tokyoensis* HABU
ニセトックリゴミムシ
7exs., 八束村東湿原, 12.IX.1994, O
17. *Lachnoderma asperum* BATES
アリスアトキリゴミムシ
1ex., 上斎原村恩原湖, 20.VII.1991, O
アリとの関係が予想されている美麗種で, 全国的にも少ない。
18. *Lebidia bioculata* MORAWITZ フタツメゴミムシ
1ex., 奈義町滝山, 22.VI.1998, F
19. *Demetrias marginicollis* BATES
ミズギワアトキリゴミムシ
1ex., 上斎原村人形山, 18.VI.1997, F
2exs., 中和村津黒高原, 10.VII.1993, KW, ビーチング
20. *Dromius nipponicus* HABU
キタホソアトキリゴミムシ
1♂, 高梁市臥牛山, 14.I.1994, F
♂のゲニタリアで同定。県北から記録のある種である。
21. *Philorhizus optimus* (BATES)
キイロアトキリゴミムシ
2exs., 笠岡市生北木島豊浦, 18.IX.1993, N
22. *Orectochilus regimbarti* SHARP オナガミズスマシ
1ex., 勝北町奥津川, 20.VII.1996, AW
23. *Carpophilus pilosellus* MOTSCHULSKY
コメノケシキスイ
3exs., 熊山町稗田, 22.V.1999, Y
精米所の粉のたまった所から採集した。
24. *Cryptocephalus amicus* BALY
キアシチビツツハムシ
2exs., 中和村山乗山, 11.VII.1993, KW, ビーチング
1ex., 西栗倉村若杉, 9-10.VII.1994, KW, ライト山乗山産の♂交尾器で確認した。
25. *Ophraella communis* LESAGE ブタクサハムシ
3exs., 岡山市中島(百間川), 5.XI.1999, Y
目撃, 岡山市今谷(百間川), 5.XI.1999, Y

4exs., 岡山市松尾, 11.XI.1999, Y

1ex., 岡山市西大寺新地, 25.IX.1999, Y

百間川ではブタクサから, 新地と松尾ではオオブタクサから採集した。

筆者の見た範囲では, ブタクサ, オオブタクサ共に少しだけ食痕がある程度で, 大発生というわけではないようである。

26. *Apion sulcirostre* SHARP セアカホソクチゾウムシ

1ex., 中和村山乗山, 6-7.IX.1986, KW, 灯火採集

27. *Trigonocolus sulcatus* ROELOFS コカタビロゾウムシ

1ex., 加茂川町高富, 18.VI.1990, N

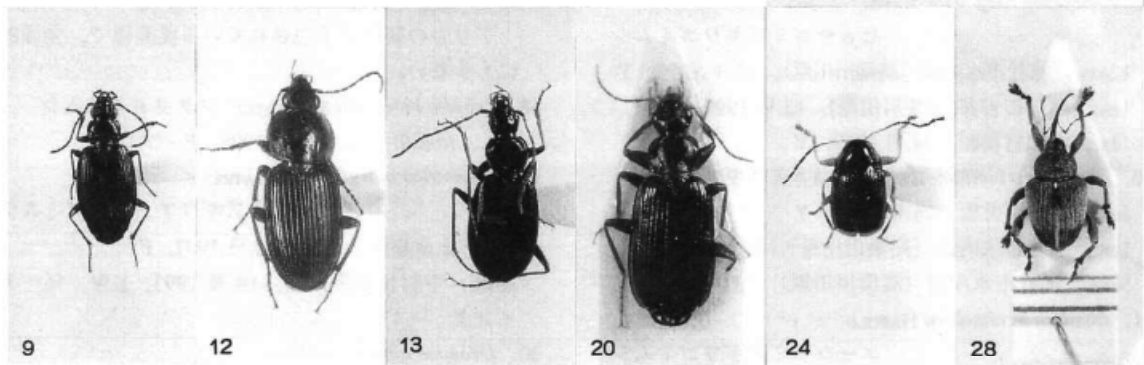
28. *Curculio kojimai* MORIMOTO コジマシギゾウムシ

1ex., 落合町栗原, 6.V.1997, F

29. *Rhyssematoides flavomaculatus* MORIMOTO

キボシクチカクシゾウムシ

1ex., 加茂町倉見, 7.VI.1986, KW



大室海岸で漂着ゴミから採集したゴミムシ類

山 地 治*

1999年7月4日に倉敷市大室海岸で採集したオサムシ科とホソクビゴミムシ科のゴミムシ類の記録を報告する。

採集者はすべて筆者であり, 記録は大室海岸の砂浜の部分に数日前の大雨で流れ着いた漂着ゴミから採集したものである。このゴミには枯れた竹やアシの茎が多く含まれており, 位置関係から考えると高梁川から流れてきたものと思われ, 河川中流域で得られるゴミムシが大量に見られた。

普段海岸では見られない種が多く, これらのゴミムシは短期間で死滅するのであろう。

なお, 同時に漂着したと思われる漁港内のゴミにはフナムシが大量にたかかっていて甲虫類は殆ど見られなかったし, 海岸の岩場に近い部分でもフナムシが多く, ゴミムシは少なかった。

1. *Scarites terricola pacificus* BATES

ナガヒョウタンゴミムシ, 2exs.

2. *Dyschirius batesi* ANDREWES

ムネアカチビヒョウタンゴミムシ, 2exs.

3. *Trechus ephippiatus* BATES

ヒラタキイロチビゴミムシ, 1ex.

4. *Tachyura fuscicauda* (BATES)

ウスモンコムズギワゴミムシ, 4exs.

* 〒701-1221 岡山市芳賀5116-11

5. *Macrotachys recurvicollis* (ANDERWES)
アトオビコミズギワゴミムシ, 1ex.
6. *Tachyura laetifica* (BATES)
ヨツモンコミズギワゴミムシ, 1ex.
7. *Bembidion morawitzi* CSIKI
ヨツボシミズギワゴミムシ, 1ex.
8. *Bembidion cnemidotum* BATES
ウスモンミズギワゴミムシ, 4exs.
9. *Bembidion chloreum* BATES
アオミズギワゴミムシ, 4exs.
10. *Bembidion hiogoense* BATES
ヒョウゴミズギワゴミムシ, 1ex.
11. *Asaphidion semilucidum* (MOTSCHULSKY)
メダカチビカワゴミムシ, 3exs.
12. *Patrobis fluvipes* MOTSCHULSKY
キアシヌレチゴミムシ, 1♂2♀
13. *Lesticus magunus* (MOTSCHULSKY)
オオゴミムシ, 1♀
14. *Pterostichus planicollis* (MOTSCHULSKY)
キンナガゴミムシ, 3♂2♀
15. *Pterostichus sulcitaris* MORAWITZ
アシミゾナガゴミムシ3♂4♀
16. *Pterostichus haptoderoides japonensis* LUTSHNIK
トックリナガゴミムシ, 5exs.
17. *Pterostichus longinquus* BATES
コホソナガゴミムシ, 20exs.
18. *Pterostichus prolongatus* MORAWITZ
オオクロナガゴミムシ, 3♂2♀
19. *Pterostichus rotundangulus* MORAWITZ
ヒメホソナガゴミムシ, 2♂1♀
20. *Pterostichus microcephalus* (MOTSCHULSKY)
コガシラナガゴミムシ, 3♂1♀
21. *Platynus magnus* (BATES)
オオヒラタゴミムシ, 2exs.
22. *Platynus leucopus* (BATES)
タンゴヒラタゴミムシ, 2exs.
23. *Platynus chalconus* (BATES)
アオグロヒラタゴミムシ, 5exs.
24. *Dolichus halensis* (SCHALLER)
セアカヒラタゴミムシ, 1♀
25. *Synuchus arcuaticollis* (MOTSCHULSKY)
マルガタツヤヒラタゴミムシ, 1ex.
26. *Amara chalcites* DEJEAN マルガタゴミムシ, 5♂
♂のみ報告する。
27. *Amara chalcophaea* BATES
コアオマルガタゴミムシ, 1♀
28. *Amara simplicidens* MORAWITZ
コマルガタゴミムシ, 2♀
29. *Amara gigantea* (MOTSCHULSKY)
オオマルガタゴミムシ, 1♀
非常に多くの個体が見られた。
30. *Anisodactylus signatus* (PANZER) ゴミムシ, 1♂2♀
31. *Anisodactylus punctatipennis* MORAWITZ
ホシボシゴミムシ, 2♂3♀
32. *Anisodactylus sadoensis* SCHAUBERGER
オオホシボシゴミムシ, 1♂
33. *Harpalus capito* MORAWITZ オオゴモクムシ, 1♀
34. *Harpalus griseus* (PANZER) ケウスゴモクムシ, 2♂
35. *Harpalus jureceki* (JEDLICKA) ヒメケゴモクムシ, 3♂
36. *Harpalus eous* TSCHITSCHERINE
オオズケゴモクムシ, 5♂3♀
37. *Harpalus tridens* MORAWITZ コゴモクムシ, 2♂3♀
38. *Harpalus sinicus* HOPE
ウスアカクロゴモクムシ, 4♂3♀
39. *Harpalus niigatanus* SCHAUBERGER
クロゴモクムシ, 4♂3♀
40. *Harpalus tinctulus* BATES
アカアシマルガタゴモクムシ, 2♂1♀
41. *Harpalus discrepans* MORAWITZ
ハコダテゴモクムシ, 1♀
42. *Bradycellus subditus* (LEWIS)
コクロヒメゴモクムシ, 1ex.
43. *Stenolophus agonooides* BATES
ナガマメゴモクムシ, 1♂2♀
44. *Stenolophus difficilis* (HOPE)
ミドリマメゴモクムシ, 1♂1♀
45. *Chlaenius pallipes* GEBLER アオゴミムシ, 3♂
46. *Chlaenius micans* (FABRICIUS)
オオアトボシアオゴミムシ, 1♀
47. *Chlaenius posticalis* MOTSCHULSKY
キボシアオゴミムシ, 1♀
48. *Lachnocrepis prolixa* (BATES)
トックリゴミムシ, 2♂
49. *Lachnocrepis japonica* BATES
ヤマトトックリゴミムシ, 1♂
50. *Odacantha aegrota* (BATES)
チャバネクビナゴミムシ, 2exs.
51. *Lachnolebia cribricollis* (MORAWITZ)
キクピアオアトキリゴミムシ, 1ex.
52. *Brachinus incomptus* BATES
ヒメホソクビゴミムシ, 2exs.

岡山県からのハサミムシの記録

山地 治*

岡山県からのハサミムシ類の記録は断片的に見られるものの、まとまった報告は今までなかったようである。筆者はこの度、奥島氏のコレクションをお貸りすることができ、竹内幸夫氏から戴いた標本に筆者の標本を加えることによって、岡山県のアサミムシの大雑把な分布像が見えてきたと思われるので、ここに報告する。

貴重な標本を検査して戴いた奥島雄一氏、採集品を戴いた竹内幸夫氏に感謝する。

なお、奥島氏の採集品については倉敷市自然史博物館に納められる予定である。

採集者名は、竹内-T、奥島-O、山地-Y、と略記しており、また、種名には番号を振っているが、これは写真番号を兼ねている。

ハサミムシの学名は日本産野生生物目録(無脊椎動物編Ⅱ)に従った。

各種の解説については石垣島在住のアサミムシの研究者である河野勝行氏から御教示を戴いたり、インターネット上のホームページを利用して戴いたことを参考にしている。河野勝行氏に感謝申し上げる。

1. *Anisolabis maritima* (BONELLI) ハマベハサミムシ
4exs., 岡山市久々井海岸, 25.X.1998, Y
1♀, 邑久町錦海塩田跡地, 14.VIII.1999, Y
1♀, 岡山市久々井海岸, 25.IX.1999, Y
いずれもゴミの下から採集した。内陸部にも棲息しているそうであるが、今のところ海岸近くで採集しているだけである。
2. *Euborellia annulipes* (LUCAS) コヒゲジロハサミムシ
2♂8♀, 岡山市久々井海岸, 25.IX.1999, Y
海岸の堤防の海側に捨てられていたかぼちゃの実や茎などが腐ったものの中で、キアシハサミムシやハマベハサミムシと共に混棲していた。
3. *Euborellia plebeja* (DOHRN) キアシハサミムシ
7exs., 熊山町稗田, 1.VIII.1999, Y
1ex., 久米南町弓削, 11.IX.1999, Y
1ex., 岡山市久々井海岸, 25.IX.1999, Y
熊山町と岡山市では野菜クズの捨て場から、久米

南町では燈火に来ていたと思われる個体を採集した。

本種はコヒゲジロハサミムシと非常によく似ているが、鱗片状の前翅があることで同定している。

4. *Gonolabis marginalis* (DOHRN) ヒゲジロハサミムシ
1♂, 新庄村毛無山, 3.VI.1951, T
5. *Labia minor* (LINNEAUS) ミジンハサミムシ
1♂3♀, 熊山町稗田, 1.VIII.1999, Y
1♀, 邑久町錦海塩田跡地, 14.VIII.1999, Y
熊山町では野菜クズの捨て場から、邑久町では燈火に飛来した。
6. *Nesogaster lewisi* (BORMANS) クロハサミムシ
1♂, 奈義町滝山, 5.VII.1998, Y
1♀, 奈義町滝山, 2.VIII.1998, Y
衰弱したアカマツに生えたヒトクチャタケに多数が集まっていた。
7. *Labidura riparia japonica* (de HAAN) オオハサミムシ
2exs., 津山市, 4.IV.1960, T
1ex., 岡山市牟佐(旭川東岸), 26.IX.1998, Y
1ex., 邑久町錦海塩田跡地, 25.IV.1999, Y
1♀, 岡山市久々井海岸, 25.IX.1999, Y
牟佐及び久々井海岸では増水のゴミの下から採集した。海岸や川岸の石下からよく発見できるようである。
8. *Anechura harmandi* (BURR) コブハサミムシ
7♂(A)4♀, 川上村湯船, 8.XI.1993, O
4♂(1A,2L,2中)1♀, 新見市花見山, 28.IX.1998, O
1♂(A), 新見市阿哲峡, 20.VI.1994, O
1♀, 新見市草間, 23.X.1994, O
1♂(A), 高梁市臥牛山, 17.VIII.1989, O
1♂(L), 八束村上蒜山, 11.IX.1994, O
1♂(A), 上斎原村恩原湖, 3.VIII.1989, O
1♀, 上斎原村遠藤, 10.X.1998, Y
1♀, 東粟倉村後山, 15.V.1999, Y

コブハサミムシには♂のハサミが長く伸びるアルマン型と短く曲がるルイス型があり、それぞれ(A),(L)と表わしている。「中」としたのはその中間型である。

地域によってはどちらか一方しか出現しないようであるが、岡山県では両方の型が見られるようである。

* 〒701-1221 岡山市芳賀5116-11

る。

9. *Eparchus yezoensis* (MATSUMURA et SHIRAKI)

エゾハサミムシ

2exs., 西粟倉村若杉, 19.V.1996, O

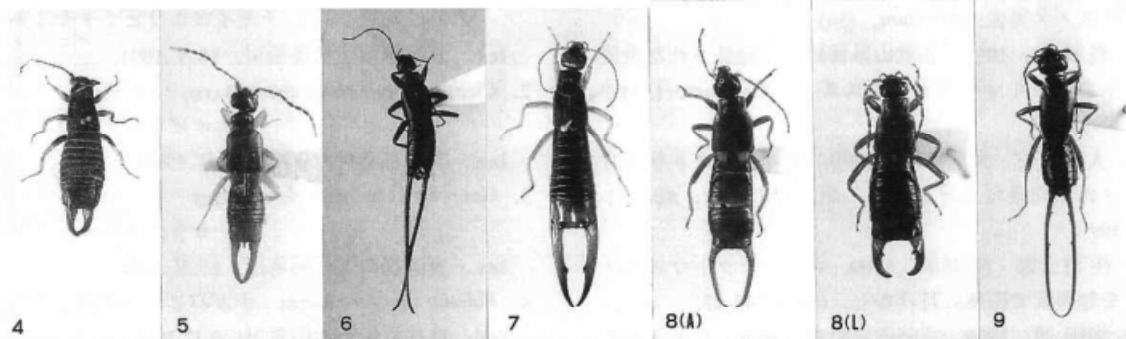
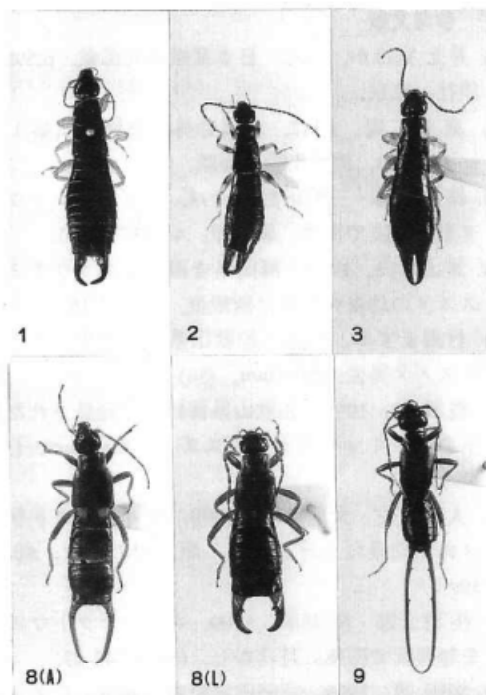
3exs., 勝山町星山, 26.VII.1998, O

1ex., 奈義町那岐山, 25.IX.1995, O

1ex., 賀陽町吉川, 22.VII.1996, O

1ex., 川上村上福田, 24.VII.1999, Y

川上村では燈火に飛来してきたと思われる個体を、朝、室内で採集した。



おとしがみ

岡山県初のキョウチクトウスズメ

小野 洋・広瀬正明

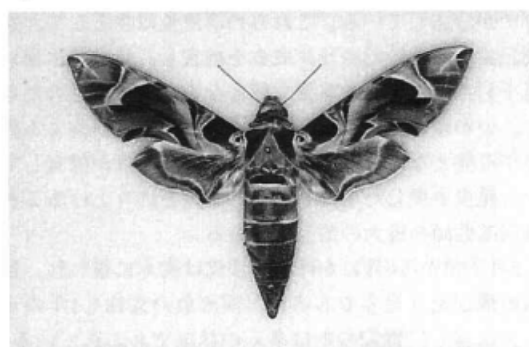
キョウチクトウスズメ *Daphnis nerii* (LINNAEUS) は、アフリカ、インドを経て東南アジアに分布しており、わが国では、1974年以降沖縄本島に土着し、その後も南九州（鹿児島県）での発生が報告されている¹⁾²⁾。さらに、愛媛県新居浜市³⁾、最近では、宮崎県⁴⁾、山口県⁵⁾、和歌山県⁶⁾、愛知県⁷⁾、静岡県⁸⁾⁹⁾などの採集報告がある。

この度、倉敷市の一主婦により、筆者の一人である小野が館長を務めている倉敷昆虫館に、本種の新鮮な個体が届けられ、岡山県内での採集が確認されたので報告する。

1♀, 倉敷市連島町連島竜の口国際霊園, 17.IX.1999, 曾我部友江採集

本種はアフリカからヨーロッパへはしばしば渡りをする蛾として有名であり、台湾には土着していないにもかかわらず、沖縄本島には既に土着しており、南九州では一時的ではあるがしばしば大発生を繰り返しているとのことである。中国地方では上記山口県に次いで2番目の記録であり、もちろん偶産したものと考えられる。

南方からの飛来の可能性を考えると、台風5号が7月29日に九州から中国地方を通過している。しかし、この個体は損傷もほとんどなく、台風からも約50日が経過しているので、その可能性は小さい。次に、外国からの船舶による搬入を考えると、多数の外国貨物船の入港する水島港から、上記採集地までの直線距離は約3kmである。積み荷に付着していた蛹が羽化した可能性は十分考慮し得るものではないだろうか。



なお、上記標本は倉敷昆虫館に保管されることになったので、付記しておく。

末筆ながら、標本を提供いただいた、曾我部友江氏に感謝の意を表したい。

参考文献

- 1) 井上 寛ほか, 1982. 日本産蛾類大図鑑. p.598. 講談社, 東京.
- 2) 東 清二編, 1987. 沖縄野外観察図鑑 (第1巻). pp.182-183. 沖縄出版, 那覇.
- 3) 緒方正美・三木正男, 1993. キョウチクトウスズメを新居浜で採集. 蝶と蛾, 44(1): 28-30.
- 4) 浦山幸夫, 1998. 静岡県吉田町でキョウチクトウスズメの幼虫大発生. 誘蛾燈, (155): 16.
- 5) 村瀬ますみ, 1998. 和歌山県北部でキョウチクトウスズメ発生. Kinokuni, (54): 14.
- 6) 乾風 登, 1998. 和歌山県御坊市で発見された熱帯系の蛾・キョウチクトウスズメ. Kinokuni, (54): 14-15.
- 7) 大庭道夫・大庭恵子, 1999. キョウチクトウスズメの山口県における発生. 北九州の昆虫, 46(1): 59.
- 8) 枝 恵太郎・清 邦彦, 1999. キョウチクトウスズメを静岡県で採集. 月刊むし, (342): 42-43.
- 9) 岩田 靖, 1999. 宮崎県宮崎市で発生したキョウチクトウスズメ. 月刊むし, (342): 43.
- 10) 西原かよ子, 1999. キョウチクトウスズメを愛知県で採集. 誘蛾燈, (158): 112.
(小野 洋; 〒710-0801 倉敷市酒津2580-50)
(広瀬正明; 〒710-0031 倉敷市有城498-5)

溪流魚の捕食したカミキリムシについて

大 森 斉

平均水温が20℃を上回らない河川の源流部には、岡山県であれば、アマゴと呼ばれる陸封型のサケ科の溪流魚が生息している。一方、山陰側には、ヤマメ、イワナが分布している。これらの溪流魚は主として、水棲昆虫その他の幼虫及び成虫を捕食し、時には水面に落下した甲虫なども重要な餌となる。この習性のために、いわゆる毛鉤という小昆虫を模した擬餌鉤による釣りが可能となる。そのため、その場所の魚が捕食している昆虫を擬した毛鉤を選択して魚を釣り上げることは溪流釣師の最大の楽しみである。

5月下旬から6月にかけての溪流は樹木に覆われ、昆虫の飛び交う世界であるが、溪流魚の食欲も1年のピークに達し、胃袋の中は多くの昆虫であふれている。筆者はカミキリ屋であり（最近はもっぱら観察のみ）、ここ8、9年、アマゴの捕食した甲虫に興味をひかれて調べているが、多くのハムシやカミキリモドキなどに混じってカミキリムシも結構捕食されていることが分

かった。カミキリムシの飛翔力はそれほど強力ではないので、水面に落下する機会も多いのではないかと考えられる。

1999年8月の倉敷昆虫同好会夏季例会の際に、口頭で紹介させていただいたが、改めてここに報告しておきたい。

アマゴによるカミキリムシの捕食例の代表的なものは次のとおりである。すべて筆者が釣り上げたアマゴの胃袋に入っていたものである。

1. *Phymatodes testaceus* LINNE
チャイロホソヒラタカミキリ
lex., 真庭郡川上村湯船川, 18.V.1991
 2. *Cleptometopus bimaculatus* BATES
ハスオビヒゲナガカミキリ
lex., 苫田郡富村白賀川, 15.IX.1995
 3. *Gaurotes ussuriensis doris* BATES
カラカネハナカミキリ
lex., 真庭郡川上村明蓮川, 25.V.1996
 4. *Pidonia signifera* BATES ナガバヒメハナカミキリ
lex., 真庭郡川上村明蓮川, 6.VI.1996
- これらのカミキリムシはほぼ完全な個体として得られた。溪流魚は、溪流を取り巻く樹林帯に成立している食物連鎖に依存して生息している。豊かな昆虫相を育む広葉樹林は多くの溪流魚を育てることができるが、針葉樹の植林の中を流れる溪流には魚は極端に少ない。昆虫を他の生物との関わり合いの中で捉えることも、また別の楽しみを与えてくれるものであり、何かのご参考になればと思い、報告させていただいた。
(〒700-0082 岡山市津島中1-2 RE302)

岡山県産の珍しい昆虫3種の記録

澤 田 博 仁

筆者の標本を整理していたところ、県下では珍種に属すると考えられる種があったので、ここに報告しておく。いずれも筆者が採集したものである。

1. *Sympyga paedisca* (BRAUER) オツネトンボ
1♀, 岡山市高野尻 (金山山頂), 5.X.1996, 守安敦氏同定 (写真1)
局所的にしか発生しないといわれる本種であるが、筆者が長年フィールドにしている金山に行った時に採集することができた。同定していただいた守安氏に感謝する。
2. *Ceriana japonica* (SHIRAKI)
ヒサマツハチモドキハナアブ
lex., 岡山市津高台 (ダイミ山), 29.IV.1999, 近藤

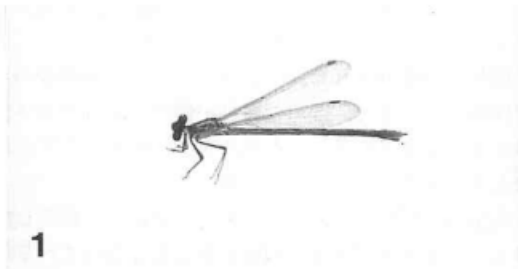
光宏氏同定 (写真2)

住宅団地津高台に隣接する半田山山系のダイミ山で、草むらをスウィーピングしたところ、偶然採集できたものである。倉敷市立自然史博物館館長の近藤光宏氏によると、非常に珍しく稀少だとのことである。同定及び貴重なご助言をいただいた近藤氏に感謝する。

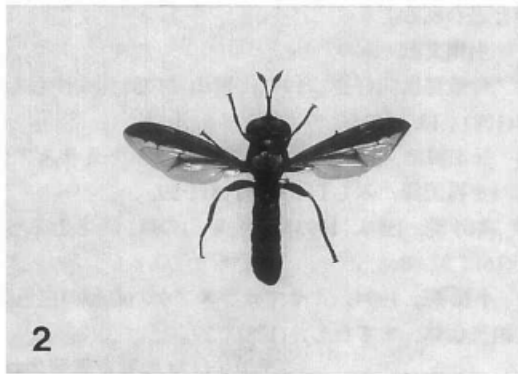
3. *Artena dotata* (FABRICIUS) ツキワクチバ

lex., 岡山市厚生町, 25.X.1998

筆者自宅マンションのエレベーター前ピロティにて、天井に近い白壁に止まっていたのを採集した。県下では、岡山市半田山と高梁市臥牛山の記録が知られているようである。



1



2



3

参考文献

楨本精二, 1966. 岡山県未記録の蛾. すずむし, 16(2,3,4): 46-59.

赤枝一弘, 1970. 岡山市の蛾類目録 I. すずむし, (104): 19-34.

宇野弘之, 1991. 鱗翅目(蛾類)採集目録. 高梁市臥牛山昆虫目録, pp.51-100. 高梁市教育委員会「臥牛山の猿生息地」調査団, 高梁市.

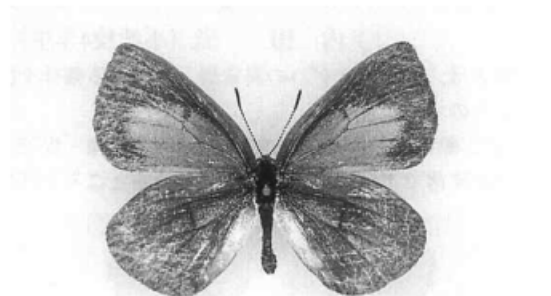
(〒700-0985 岡山市厚生町2-1-8-1001)

邑久町のウラゴマダラシジミ黒化型について

中村 具見

邑久町のウラゴマダラシジミは、高八(1997)により既に報告されているが、筆者はこの付近において過去に採集した本種の中から黒化型を見出しているので報告しておく。

1♂, 邑久郡邑久町福谷・知尾(20m), 11.VI.1995



この個体は、当日得られた9個体の中の1個体で、他はすべて正常型であった。時期的には少し遅かったせいか全体にやや汚損しているが、後翅は中室に青色鱗を散布する外は完全に黒化しており、また前翅の青色部も正常型に比べると縮小している。

調査地点は、瀬戸内海に面した海岸沿いの丘陵地帯であり、見通しの良いところでは黒化型の多く生息する小豆島も遠望できる場所である。

引用文献

高八稔弘, 1997. 1996年ウラゴマダラシジミの採集記録. へりぐろ, (18): 40-42.

(〒719-1134 総社市真壁1048)

岡山市におけるハネピロトンボの記録

大島 康宏

ハネピロトンボ *Tramea virginia* (RAMBUR) は、ウスバキトンボやオオギンヤンマなどと同様、東南アジアの熱帯、亜熱帯の地域から飛来する種として知られている。和名のとおり後翅の幅が極めて広く、また、近縁種のヒメハネピロトンボとは後翅の基部から三角室に至る範囲にある濃褐色斑の周囲及び中央が橙黄色を帯

びることで区別できる。

岡山県におけるハネビロトンボの記録は少ないが、このたび岡山市において本種が採集されているので、ここに報告する。

1♂, 岡山市正義, 29.IX.1999, 小笠原健採集・保管
採集者の小笠原氏は周囲の開けた大きな池でこの個体を発見し、本種だと確信して採集されたとのこと。なお、この池は南方に位置する瀬戸内海から山を1つ越えた所にある。

末筆ではあるが、記録の発表を快く許された小笠原健氏に感謝する次第である。

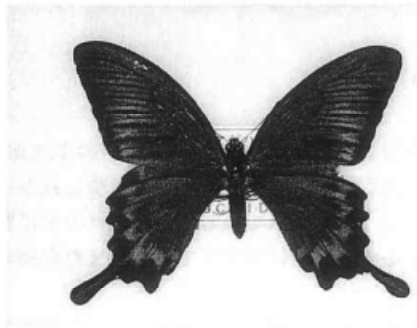
(〒713-8122 倉敷市玉島中央町1-20-7)

カラスアゲハの異常型の記録

内 田 光 (小学校4年生)

筆者は、カラスアゲハの異常型と思われる個体を採集したので、報告する。

1♂, 総社市美袋槻, 16.V.1999, 筆者採集・保管
槻の集落でアザミの花で吸蜜しているところを採集



したものだが、写真で見るとおり、後翅表亜外縁の青緑色帯が内側に拡大している。なお、集落の周囲一帯では、他にミヤマカラスアゲハ、オナガアゲハ、モンキアゲハ、ナガサキアゲハ、クロアゲハなどが同時に飛んでいた。

(〒710-0061 倉敷市浜の茶屋201-2 B-101)

金甲山麓のミヤマカラスアゲハ

中 村 具 見

ミヤマカラスアゲハは県北の中国山地などに多く生息しており、県南部では比較的稀なチョウである。児島半島では、これまでも玉野市常山¹⁾や玉野市金甲山²⁾などで記録されているが、大半は山頂に飛来した♂の記録であり、山麓部からの採集例はあまり知られていないようである。

筆者は、金甲山山麓でウラボマダラシジミの幼虫を探していたときに、下記のとおり採集・目撃しているので報告しておく。

1♀採集2♂目撃, 玉野市八浜町波知・元波知(90m),
25.IV.1998



樹林内の農道べりで、ネジキの白い花で吸蜜中の♀を採集した。また、近くの樹林が開けた場所でナワシログミヤツツジの花に、カラスアゲハやオナガアゲハとともに飛来する計2♂を目撃した。

金甲山山麓は樹相が豊かで広葉樹林がよく繁茂しており、付近一帯が本種の格好の発生地となっているものと思われる。

引用文献

- 1) 倉敷昆虫同好会, 1972. 岡山県の蝶. すずむし, (108); 13.
- 2) 三宅誠治, 1992. 児島半島よりミヤマカラスアゲハを再記録. みちしるべ, (13); 59.
- 3) 森山 克, 1993. 1993年の金甲山の蝶. みちしるべ, (16); 87-88.
- 4) 小松 恵, 1994. ミヤマカラスアゲハ春型の白色帯消失個体. すずむし, (128); 29.

(〒719-1134 総社市真壁1048)

アサギマダラ・春の目撃記録

中 村 具 見

アサギマダラは、県南部の低地では秋季に南方へ移動中とみられる個体が目撃される例が多いが、春季に瀬戸内沿岸で目撃しているので報告しておく。

1ex., 玉野市十禅寺山(230m), 9.V.1998

山頂付近の遊歩道で、林縁に沿って地上約2~3m付近を水平にゆるやかに飛翔していたもの。見た感じでは少し汚損しているようにも思われたが、採集していないので鮮度は明らかでない。

(〒719-1134 総社市真壁1048)

珍しいヤドリスズメバチの記録

近藤光宏*

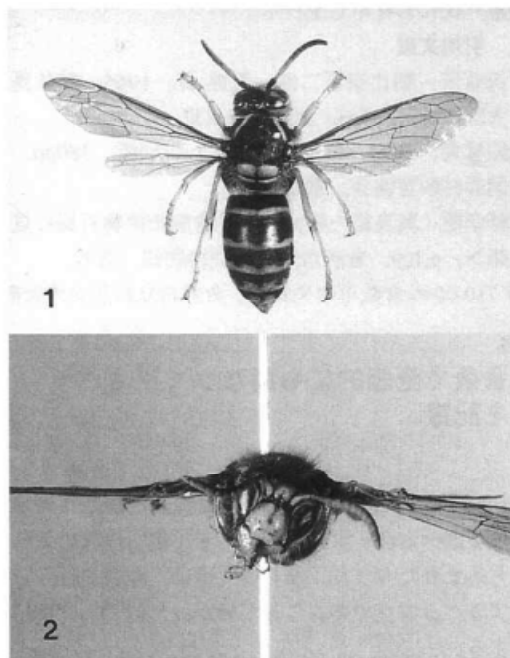
1999年の夏、真庭郡勝山町の山中（地図参照）において大変珍しいヤドリスズメバチが記録されていることが分かったので、採集者の倉敷市立自然史博物館友の会会長河田和雄氏に代わって報告しておく。

データ

<Vespidae スズメバチ科>

Vespula austriaca PANZER ヤドリスズメバチ

1♀(女王), 岡山県真庭郡勝山町大字菅谷, 25.
VII.1999, 河田和雄氏採集 (写真1, 2)



松浦 (1988) によれば、ヤドリスズメバチは日本では北海道及び本州の山地に分布するとのこと。そして、*V. schrenckii* ツヤクロスズメバチの働きバチ羽化後の巣に女王が侵入し、その女王を殺して働きバチに自種の新女王と雄を育てさせること。雄と女王は8月に出現するが、詳しい生態は不明などと記述されている。

手元の文献によれば、石川県、福井県及び隣県では広島県（比和町比和）に分布することが知られているが、岡山県からは恐らく初めての記録と思われる。

ヤドリスズメバチの同定に当たっては、同じく松浦 (1988) を参照した。それによると、頭部を正面（写真2参照）から見て中央の頭楯にある斑紋の形によるが、中央付近に1～3個の黒点のあることが本種の特徴のようである。

ヤドリスズメバチが寄生性のハチであり、ツヤクロスズメバチに寄生することは、先にも述べた通りであるが、河田氏によればヤマツツジと思われる低木に掛けられたクロスズメバチ属の巣の周りで採集されたとのことである。



記録地は、星山 (1,030m) の南山麓で、付近一帯の自然環境は極めて良好である。私はヤドリスズメバチと寄種との関係が知りたく、この巣が何バチなのか確認するため、早々現地へ行くことにしていたが、実現しないままになっていた。幸い河田氏は、勝山美しい森ビジターセンター管理人黒田氏に巣の捕獲を依頼して下さり、黒田氏は、その巣をわざわざ倉敷まで届けて下さった。しかし、時期的に遅すぎたようで、巣は原型を留めないほど崩壊していた。それでも、めったにない機会なので、入念に調べたが、同定に必要なハチの残骸すら見当たらず、誠に残念な思いをした次第である。

終わりに、貴重なハチを採集され、快く提供して下さいました河田和雄氏、並びに巣を捕獲し、遠い所をわざわざ届けて下さった黒田氏に深謝申し上げたい。

* 〒710-0046 倉敷市中央2-6-1, 倉敷市立自然史博物館

引用文献

- 松浦誠, 1988, スズメバチはなぜ刺すか. 291pp. 北海道大学図書刊行会.
 石川良輔, 1988. 学研生物図鑑昆虫Ⅲ, p.370. 学習研究社, 東京.
 中村慎吾・榎木成司, 1997. ハチ目 広島県昆虫誌, pp.559-633. 比婆科学教育振興会, 広島県.

- 富樫一次, 1998. 石川県の自然環境シリーズ 石川県の昆虫, p.291. 石川県環境安全全部自然保護課, 金沢市.
 羽田義任・田塾正・奥野宏・野坂千津子・室田忠男・黒川秀吉・井上重紀, 1998. ハチ目 福井県昆虫目録 (第2版), pp.314-404. 福井県県民生活部自然保護課, 福井市.

おとしがみ

倉敷でホソサシガメを記録

近藤光宏

1999年の夏, 倉敷市立自然史博物館主催の「標本の名前を調べる会」へ持参されていた金澤奈津子氏採集によるサシガメの一種は, 岡山県下では既記録の少ないホソサシガメであることが分かったので, ここに採集者に代わって報告する。

ホソサシガメは, 安松ほか (1965) によれば, 体長14~18mmで, 長形をしていることや, 雑草の茂った地表で生活し, 北海道, 本州, 九州, 琉球; 台湾, 東シベリア等広域に分布することなどが記述されている。岡山県では, 筆者の手元にあるものでは, 青野孝昭氏採集による真庭郡新庄村のもの (併せてこの記録も報告しておく) と, 他に青野・奥島 (1994) の倉敷市中央の記録があるくらいで, 既記録・個体数は共に少ないようである。

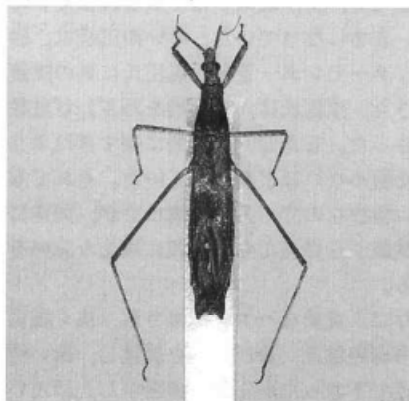
データ

<Reduviidae サシガメ科>

Rygotlampis cognata HARVATH ホソサシガメ

1ex., 倉敷市玉島, 11.VIII.1999, 金澤奈津子氏採集 (ライトトラップ: 写真)

1ex., 真庭郡新庄村土用, 18.VIII.1984, 青野孝昭氏採集 (ライトトラップ)



終わりに, 標本をわざわざご持参いただいた金澤奈津子氏, かつて標本をお譲りくださっていた青野孝昭氏の両氏に, また, 同定に際しご助言ご協力賜った倉敷昆虫館館長の小野洋氏, 並びに分布についての情報を提供して下さった倉敷市立自然史博物館学芸員の奥島雄一氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 安松京三・朝比奈正二郎・石原保, 1965. 原色昆虫大図鑑Ⅲ. 358pp. 北隆館, 東京.
 友国雅章, 1993. 日本原色カメムシ図鑑. 380pp. 全国農村教育協会, 東京.
 青野孝昭・奥島雄一編, 1994. 倉敷市生物目録<昆虫類>, p.109. 倉敷市立自然史博物館, 倉敷.
 (〒710-0046 倉敷市中央2-6-1, 倉敷市立自然史博物館)

倉敷で全国的にも稀なツマアカベッコウを記録

近藤光宏

1999年8月, 倉敷市立自然史博物館主催の「標本の名前を調べる会」に採集者である千田裕優氏によって持ち込まれたベッコウバチの一種は, 非常に珍しいツマアカベッコウであることが分かったので, ここに報告する。

本種は, 市販の図鑑類には記載されていないし, もちろん私も初めて目にするベッコウバチであった。体長は実測で20mmと大型で, しかも, 腹部末端が赤いという特徴のあるベッコウバチであるから, なおのこと何とか調べてみたいとの意欲にかられ, 平嶋 (1989) の日本産昆虫総目録をひも解いていたところ, ツマアカベッコウが目にとまり, 他の和名にはそれらしきものがないので, とりあえずツマアカベッコウ?ということにして, その標本はお預かりしていた。

この度, 同定を依頼していた石川県ふれあい昆虫館の富樫一次館長よりこのベッコウバチは間違いなくツマアカベッコウであり, 南方系のものでこれまで本州

では和歌山県と神奈川県から採集されているに過ぎない珍しいハチであるとの同定結果を載いた。ちなみに、先に述べた平嶋(1989)の目録には、本種の分布は本州、奄美大島、沖縄、久米、宮古島、石垣島、西表、与那国：中国とあり、したがって、四国、九州は未記録のようである。

データ

<Pompilidae ベッコウバチ科>

Tachypompilus analis (FABRICIUS) ツマアカベッコウ

1ex., 岡山県倉敷市向山, alt.100m, 10.VIII.1999, 千田裕優氏採集



このような、貴重な発見につながったのは、熱意もさることながら、千田さんのように平素から選り好みをしないで何でも採集するといった心構えが大切であると改めて思い知らされた次第である。

終わりに、本種の同定をお引き受け下さった石川県ふれあい昆虫館の富樫一次館長に対し深謝申し上げたい。合わせて、貴重な標本を提供され、発表をお許しいただいた採集者の千田裕優氏にお礼申し上げたい。(〒710-0046 倉敷市中央2-6-1, 倉敷市立自然史博物館)

自宅の庭にキアシハナダカバチモドキが営巣

山 地 治

キアシハナダカバチモドキ *Stizus pulcherrimus* (F. SMITH)を自宅で確認したので報告する。

1ex., 岡山市芳賀(筆者の自宅), 12.VIII.1999, 筆者採集

自宅の庭に最近ハチがやってきては穴を掘っていることに気付いていたが、8月8日にかなり大きなハチがバツタの幼虫をかかえて穴に入っていくところを偶然目撃することができた。カメラを持ってから庭に出てみると、まだ穴の回りを飛んでいたが、すぐに再び穴に潜り込んでいったので地面を10cmほど掘ってみるとバツタの幼虫だけが出てきた。掘ったところに水を入

れてみたがすぐには出てこなかったが、水が完全に染み込んでからしばらくして、ブーンという音がしてハチが現れ、すぐに飛び去ってしまった。

8月12日になって、筆者の妻が穴に殺虫剤をまいたところ出てきたというので、探ってみると本種であった。

従来、河原近くで営巣すると思われていた本種であるが、採集地は尾根状の地形のところである。その時本種の掘ったと思われる穴は10ばかりあったが、1個体だけによるものだったのか、以後は目撃できなかった。(〒701-1221 岡山市芳賀5116-11)

ハチモドキハナアブの追加記録

近 藤 光 宏

筆者は、ハチモドキハナアブについてはすでに「県内産ハチモドキハナアブの記録」と題して本誌134号に報告している。

その後千田裕優氏によって本種2♂(写真)が記録されていることが分かったので、採集者に代わり追加記録としてここに報告する。

データ

<Syrphidae ハナアブ科>

Monoceromyia pleuralis (COQUILLET)

ハチモドキハナアブ

2♂, 岡山県倉敷市向山, 10.VIII.1999, 千田裕優氏採集

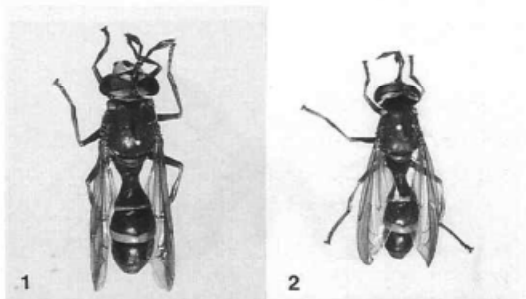


写真1: 体長実測19mm

写真2: 体長実測15mm

なお、本種の分布・生態等については、本誌133・134号に付記したので、この度は省略する。

終わりに、貴重な標本を提供して下さい上、発表をお許し頂いた千田裕優氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

近藤光宏, 1998. 岡山県からのヒサマツハチモドキハナアブの記録. すずむし, (133): 23-24.

近藤光宏, 1999. 岡山県からハチモドキハナアブを記録. すずむし, (134): 28.

(〒710-0046 倉敷市中央2-6-1, 倉敷市立自然史博物館)

吉永町のウスバシロチョウ

広瀬 正 明

北方系のチョウとみなされている *Parnassius* 属にあって、唯一分布の拡大が論じられているのがウスバシロチョウである。岡山県下でも、本種の分布地の南限記録が再々更新されている。筆者は1993年から1994年にかけて、岡山県南西部地域の調査を行っている（広瀬, 1996）が、1999年には県東部の吉永町での調査を試みた。その結果、本種が同町北部の広い範囲に分布していることが確認されたので報告する。

2♂, 吉永町笹目牛中 (250m), 9.V.1999, 他に2exs. 目撃

2♂, 吉永町都留岐大藤上 (210m), 9.V.1999, 他に2exs. 目撃

5exs. 目撃, 吉永町都留岐大藤上 (190m; 上記の場所から約700m下流), 9.V.1999

1♂, 吉永町都留岐大藤下 (150m), 16.V.1999

1ex. 目撃, 吉永町加賀美下畑 (170m), 9.V.1999

1♀, 吉永町加賀美滝谷 (230m), 9.V.1999, 他に1ex. 目撃

1♂, 吉永町多麻滝谷神社近辺 (220m), 9.V.1999, 他に1ex. 目撃

これら採集された個体は、1996年に筆者が報告した岡山県南西部地域のものとはほとんど取り上げる程の差異は認められず、すべて個体変異の範囲にある。

また、採集地の環境は明るく、開けた山間の休耕田あるいはその周辺の畑であって、すべて標高は250m以下であった。西部県境地域での採集地がほとんど標高350m以上であるのに対し、中部旭川流域、東部吉井川流域の生息地が対照的に低い（渡辺, 1986）のは、恐らく人為的な土地の利用の違いによるものではなからうか。吉永町では上記のような環境の土地は300m以上の高地には比較的少ないようである。

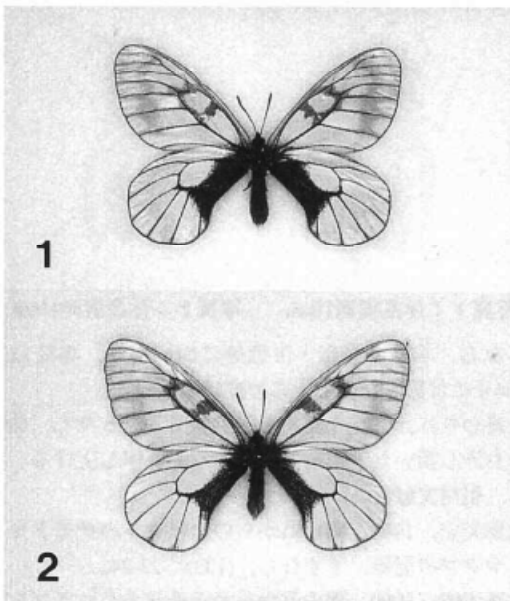
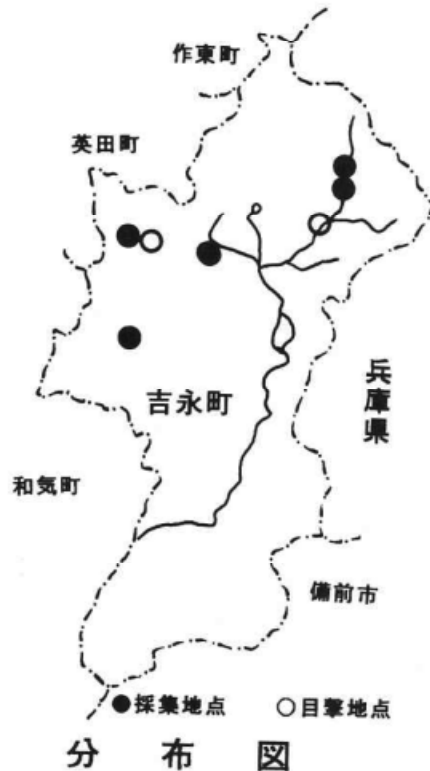


写真1：黒い個体（大藤上, 9.V.1999）

写真2：白い個体（多麻滝谷神社近辺, 9.V.1999）



参考文献

渡辺和夫, 1986. 岡山県のウスバシロチョウ. すずむし, (121): 1-13.

広瀬正明, 1996. 岡山県南西部のウスバシロチョウ. すずむし, (129): 31-32.

(〒710-0031 倉敷市有城498-5)

岡山県内甲虫類分布記録種の訂正

青野孝昭*

これまで著者が記録又は記録に関与した岡山県内産甲虫類のうち、訂正を要すると気づいた種の記録については、機会あるごとに訂正してきたが、そのままに残されているものも少なくない。この度はそれらの要訂正種を少しでも正しておきたいと考え、本誌の紙面をお借りして、訂正をさせていただくことにした。

これまでの誤報告については、ここに謹んでお詫び申し上げます。

凡例

- 1) 訂正後の正しい種名は連続番号を付し、太字で表示し、科ごとにまとめ、ほぼ日本産昆虫総目録の配列順に従った。
- 2) 誤記録種は、正しい種名の下段に、発表時の種名、掲載刊行物名、巻号、発行年、ページ、訂正理由の順に記載した。
- 3) 1つの種名のもとに、複数の種が含まれていた場合、訂正を要する個体について採集データを括弧付きで表示した。なお、採集年月日は年・月・日の順の数列表記とした。
- 4) 根拠が無いか又は不明の種が記載されていた場合、「削除すべき種」として取り上げた。

I. 訂正すべき種

Carabidae オサムシ科

1. *Bembidion semilunium* NETOLITZKY

フタモンミズギワゴミムシ

Bembidion semilunium NETOLITZKY ツマキミズギワゴミムシ、倉敷の自然鴨ヶ辻山系、1978、P.74、種の分離。*Bembidion semilunium* NETOLITZKY ツマキミズギワゴミムシ、倉敷の自然竜王山山系、1980、P.87、種の分離。*Bembidion semilunium* NETOLITZKY ツマキミズギワゴミムシ、倉敷の自然—高梁川河川敷—、1983、P.47、種の分離。*Bembidion (Peryphus) semilunium* NETOLITZKY ツマキミズギワゴミムシ、倉敷市立自然史博物館研究報告、(2)、1987、p.47、種の分離。*Bembidion semilunium* Netolitzky ツマキミズギワゴミムシ、倉敷市生物目録、1994、p.116、種の分離。

2. *Colpodes buchanani* HOPE

オオアオモリヒラタゴミムシ

Calleida lepida REDTENBACHER キガシラアオアトキリゴミムシ、倉敷の自然鴨ヶ辻山系、1978、P.75、同定ミス。

3. *Harpalus niigatanus* SCHAUBERGER クロゴモクムシ

Harpalus tridens MORAWITZ コゴモクムシのデータ中の(黒田、19751015、青野孝昭採、lex.)、倉敷の自然福山山系、林熊野神社山系、下津井城山、1976、p.105、同定ミス。

4. *Trichotichrus lewisi* SCHAUBERGER

オオクロツヤゴモクムシ

Harpalus simplicidens Schauberger ニセクロゴモクムシ、平成二年度高梁市臥牛山昆虫目録、1991、p.16、同定ミス。

5. *Trichotichnus orientalis* (HOPE)

イクビツヤゴモクムシ

Trichotichnus nipponicus HABU イクビツヤゴモクムシ、倉敷市立自然史博物館研究報告、(1)、1986、p.56、校正ミス。

6. *Bradycellus subditus* (LEWIS)

コクロヒメゴモクムシ

Bradycellus anchomenoides (Lewis) クロヒメゴモクムシ、倉敷の自然竜王山山系、1980、p.87、同定ミス。

Dytiscidae ゲンゴロウ科

7. *Hydrovatus acuminatus* MOTSCHULSKY

コマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus adachii KAMIYA マルケシゲンゴロウ、倉敷の自然—高梁川河川敷—、1983、p.50、同定ミス。*Hydrovatus subtilis* Sharp マルケシゲンゴロウ、倉敷市生物目録、1994、p.121、同定ミス。

Staphylinidae ハネカクシ科

8. *Cafius rufescens* SHARP アカウミベハネカクシ

Cafius algarum Sharp ホソウミベハネカクシのデータ中の(大室海岸、19880519、青野孝昭採、lex.)、倉敷市生物目録、1994、p.125、校正ミス。

9. *Ocyopus* sp.

Ocyopus lewisius Sharp クロサビイロハネカクシ、倉敷の自然福山山系、林熊野神社山系、下津井城山、1976、p.173、同定ミス。

* 〒710-0817 倉敷市大内937-8

10. *Indoquedius praeditus* (SHARP)

アカアシオオメハネカクシ

ヤマトオオメハネカクシ, 自然保護基礎調査報告書—湖沼・湿地地域生物学術調査結果—(岡山県立森林公園), 1983, p.91, 同定ミス. ヤマトオオメハネカクシ, 岡山県立森林公園自然ガイド, 1985, 同定ミス.

Scirtidae マルハナノミ科

11. *Sacodes minima* (KLAUSNITZER)

ヒメキムネマルハナノミ

Helodes protecta HAROLD キムネマルハナノミ, 倉敷の自然—酒津八幡山周辺地域—, 1990, p.119, 同定ミス. *Helodes protecta* Harold キムネマルハナノミ, 倉敷市生物目録, 1994, p.127, 同定ミス.

12. *Cyphon japonicola* NAKANE

アカチャチビマルハナノミ

イシハラチビマルハナノミ, 自然保護基礎調査報告書—昭和60年度湖沼・湿地地域生物学術調査結果—, 1986, p.95, 同定ミス. イシハラチビマルハナノミ, 自然保護基礎調査報告書—昭和61年度湖沼・湿地地域生物学術調査結果—, 1988, p.71, 同定ミス.

Scarabaeidae コガネムシ科

13. *Hoplia moerens* WATERHOUSE クロアシナガコガネ

Hoplia communis Waterhouse アシナガコガネ, 自然保護基礎調査報告書—若杉原生林生物学術調査—, 1997, p.61, 同定ミス.

14. *Anomala daimiana* HAROLD サクラコガネ

Anomala lucens BALLON ツヤコガネ, 倉敷の自然—酒津八幡山周辺地域—, 1990, p.118, 同定ミス.

Elateridae コメツキムシ科

15. *Hemicrepidius sinuatus* (LEWIS)

コクロツヤハダコメツキ

クロツヤハダコメツキ, 自然保護基礎調査報告書—昭和60年度湖沼・湿地地域生物学術調査結果—, 1986, p.95, 種の分割.

16. *Actenicerus pruinus* (MOTSCHULSKY)

シモフリコメツキ

Actenicerus orientalis (Candeze) オオシモフリコメツキのデータ中の(浅原, 19860507, 青野孝昭採, 1ex.), 倉敷市生物目録, 1994, p.133, 校正ミス.

17. *Paracardiophorus sequens sequens* (CANDEZE)

アカアシコハナコメツキ

Platynychus adjutor (Candeze) アカアシコハナコメツキのデータ中の(釜島, 19850826, 青野孝昭採, 1ex.), 倉敷市生物目録, 1994, p.134, 校正ミス.

Eucnemidae コメツキダマシ科

18. *Dirhagofarsus lewisi* (FLEUTIAUX)

ナガミゾコメツキダマシ

アイヌコメツキダマシ, 自然保護基礎調査報告書—湖沼・湿地地域生物学術調査結果—(岡山県立森林公園), 1983, p.91, 同定ミス. アイヌコメツキダマシ, 岡山県立森林公園自然ガイド, 1985, p.94, 同定ミス.

Lycidae ベニボタル科

19. *Konoplatycis otome* (KONO)

ムネアカテングベニボタル

Platycis nasutus (Kiesenwetter) テングベニボタル, 倉敷市生物目録, 1994, p.134, 校正ミス.

Lampyridae ホタル科

20. *Lychnuris discicollis* (KIESENWETTER) オオマドボタル

Lychnuris fumosa (Gorham) クロマドボタル, 自然保護基礎調査報告書—若杉原生林生物学術調査—, 1997, p.69, 分類整理(オオマドボタルの赤紋が小さくなった型).

Dermestidae カツオブシムシ科

21. *Dermestes haemorrhoidalis* KUSTER

カドマルカツオブシムシ

Dermestes bicolor Fabricius スジカツオブシムシ, 倉敷の自然竜王山山系, 1980, p.91, 同定ミス.

Nitidulidae ケシキスイ科

22. *Neopallodes omogonis* HISAMATSU

タテスジマルケシキスイ

Neopallodes clavatus Reitter フトヒゲツヤマルケシキスイ, 自然保護基礎調査報告書—若杉原生林生物学術調査—, 1997, p.70, 同定ミス.

23. *Neopallodes inermis* REITTER

ネアアカマルケシキスイ

モンクロアカマルケシキスイ, 自然保護基礎調査報告書自然保護地域候補地調査結果, 1982, p.169, 同定ミス.

24. *Meligethes morosus* ERICHSON

オドリコソウチビケシキスイ

Meligethes placidus Easton トゲナシチビケシキスイ, 倉敷市生物目録, 1994, p.138, 校正ミス.

Silvanidae ホソヒラタムシ科

25. *Silvanoprus inermis* (REITTER) ホソヒラタキスイ

Silvanus recticollis Reitter カクムネホソヒラタムシ, 倉敷市生物目録, 1994, p.139, 同定ミス.

Lathridiidae ヒメマキムシ科

26. *Stephostethus angusticollis* (GYLLENHAL)

ムナボソヒメマキムシ

ヒメマキムシ, 自然保護基礎調査報告書自然保護地域候補地調査結果, 1982, p.224, 同定ミス.

Oedemeridae カミキリモドキ科

27. *Eobia ambusta* LEWIS ズグロカミキリモドキ

Nacerdes melaxura LINNE ツマグロカミキリモドキ, 赤穂地点における動物調査(鹿久居島)報告書, 1983, p.109, 同定ミス.

28. *Xanthochroa waterhousei* HAROLD

アオカミキリモドキ

Xanthochroa katoi KONO カトウカミキリモドキ, 倉敷市生物目録, 1994, p.134, 校正ミス.

Pyrochroidae アカハネムシ科

29. *Tydesa lewisi* (PIC) アオグロアカハネムシ

Dasytes basicornis Nakane ニセケシジョウカイモドキ, 平成二年度高梁市臥牛山昆虫目録, 1991, p.27, 同定ミス.

30. *Pseudopyrochroa gibbifrons* (LEWIS)

コブアカハネムシ

クシヒゲピロウドムシ, 自然保護基礎調査報告書自然保護地域候補地調査結果, 1982, p.225, 同定ミス.

Tenebrionidae ゴミムシダマシ科

31. *Gonocephalum pubens* MARSEUL

オオスナゴミムシダマシ

Gonocephalum terminale Reichardt ヒメカクスナゴミムシダマシ, 久々井地点の昆虫, 1981, p.143, 同定ミス.

32. *Leiochrodes masidai* NAKANE

キイロテントウゴミムシダマシ

Leiochrodes satzuma Lewis テントウゴミムシダマシ, 倉敷の自然-酒津八幡山周辺地域-, 1990, p.122, 同定ミス. *Leiochrodes satzuma* Lewis テントウゴミムシダマシ, 倉敷市生物目録, 1994, p.146, 同定ミス.

Cerambycidae カミキリムシ科

33. *Arhopalus coreanus* (SHARP) サビカミキリ

Arhopalus rusticus (Linnaeus) ムネツヤサビカミキリ, 倉敷市生物目録, 1994, p.148, 校正ミス.

Chrysomelidae ハムシ科

34. *Cryptocephalus approximatus* BALY

バラルリツツハムシ

Cryptocephalus aeneoblitus Takizawa ルリツツハムシ, 倉敷市生物目録, 1994, p.152, 校正ミス.

35. *Chlamisus lewisii* (BALY) ツバキコブハムシ

Chlamisus lewisii (Baly) カシワコブハムシ, 倉敷市生物目録, 1994, p.152, 同定ミス.

36. *Demotina modesta* BALY カサハラハムシ

チビアラゲサルハムシ, 自然保護基礎調査報告書自然保護地域候補地調査結果, 1982, p.201, 同定ミス.

37. *Fleutiauxia armata* (BALY) クワハムシ

Liroetis coeruleipennis Weise ルリバネナガハムシ, 倉敷市生物目録, 1994, p.154, 校正ミス.

38. *Aphthonaltica angustata* (BALY) ホソルリトビハムシ

Zipanginia picipes Baly グミトビハムシ, 倉敷の自然弥高山山系, 1982, pp.92-93, 同定ミス.

39. *Argopistes biplagiatus* MOTCHULSKY

テントウノミハムシ

Aegopistes tsekooni Chen ヒメテントウノミハムシ, 倉敷市生物目録, 1994, p.155, 同定ミス.

40. *Neocrepidodera sibirica* (PIC)

クサレダマトビハムシ

カクムネトビハムシ, 自然保護基礎調査報告書-湖沼・湿地地域生物学術調査結果-, 1984, p.68, 同定ミス.

Rhynchitidae チョッキリゾウムシ科

41. *Involvulus cylindricollis* (SCHLSKY)

ツツムネチョッキリ

Involvulus cupreus (Linnaeus) ウメチョッキリ, 自然保護基礎調査報告書-若杉原生林生物学術調査-, 1997, 学名整理.

Curculionidae ゾウムシ科

42. *Phyllobius subnudus* KONO

ハダカヒゲボソゾウムシ

コヒゲボソゾウムシ, 自然保護基礎調査報告書自然保護地域候補地調査結果, 1982, p.233, 同定ミス.

43. *Curculio fulvipennis* MORIMOTO

チャバネシギゾウムシ

ミヤタケシギゾウムシ, 自然保護基礎調査報告書-昭和60年度湖沼・湿地地域生物学術調査結果-, 1986, p.95, 同定ミス.

44. *Homorosoma asperum* (ROELOFS) タデサルゾウムシ

Homorosoma aterrima (Hustache) クロトゲサルゾウムシのデータ中の(粒江, 19890515, 青野孝昭採, 1ex.), 倉敷市生物目録, 1994, p.160, 校正ミス.

45. *Wagnerinus harmandi* (HUSTACHE)

アルマンサルゾウムシ

Homorosoma aterrima (Hustache) クロトゲサルゾウムシのデータ中の(高梁市臥牛山, 19890510, 1ex., 青野孝昭採), 平成二年度高梁市臥牛山昆虫目録, 1991, p.48, 同定ミス.

II. 削除すべき種

Erotylidae オオキノコムシ科

1. ヒシモンチビオオキノコ *Tritoma discalis*, 自然保護基礎調査報告-新庄村毛無山地域-, 1998,

p.126, 校正ミス.

Attelabidae オトシブミ科

2. *Apoderus rubidus* Motschulsky ウスアカオトシブミ, 倉敷市生物目録, 1994, p.156, 校正ミス.

おとしぶみ

成羽町でウスイロコノマチョウを採集

中村 具見

ウスイロコノマチョウは移動力の強い南方系のチョウで, 近年は県内でも毎年のように得られているようである。筆者は, 1991年に多くの個体を採集して以来その姿を見ることはなかったが, 昨年は久しぶりに採集することができたので報告しておく。

1♂, 川上郡成羽町羽山(220m), 3.X.1999



人家の脇で柿の木などが植えられた畑から飛び出したもので, 比較的新鮮な夏型個体であった。

(〒719-1134 総社市真壁1048)

倉敷市で初記録の甲虫2種

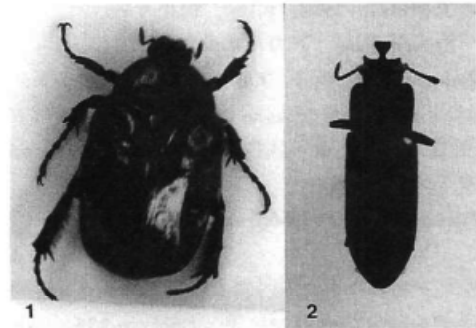
安田 剛長

山地(1997)によると倉敷市での採集記録のないキョウトアオハナムグリとミツノゴミムシダマシを同市で採集したので, ここに報告する。

1. *Protaetia lenzi* (HAROLD) キョウトアオハナムグリ
1♀, 倉敷市藤戸町天城, 20.VI.1999, 筆者採集
多数のカナブンに混じってアベマキの樹液に来ていた本種を採集した。(写真1)

2. *Toxicum tricorutum* WATERHOUSE ミツノゴミムシダマシ
1♂, 倉敷市鶴形山, 22.V.1999, 筆者採集
参道脇にあった倒木の朽ちた部分の樹皮下から採集した。(写真2)

なお, いずれの標本も倉敷市立自然史博物館に保管されている。



末筆ながら, 2種の同定や記録についてご教示いただき, 記録の発表を勧めてくださった山地治氏と倉敷市立自然史博物館の奥島雄一氏, 写真撮影などご協力いただいた倉敷昆虫館館長の小野洋氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

山地 治, 1997. 岡山県産昆虫目録, 鞘翅(甲虫)目. 534pp. ウエスコ, 岡山.

(〒710-0132 倉敷市藤戸町天城2183)

倉敷市におけるウラキンシジミの採集記録

大島 康宏

倉敷市玉島地区のトンボ調査のため, 同地区北部に位置する弥高山に訪れた際, ウラキンシジミ *Ussuriana stygiana* (BUTLER) を採集した。倉敷市においては本種の採集例がないと思われるので, ここに報告する。

1ex., 倉敷市玉島弥高山蔵本谷, 10.VI.1999, 筆者採集・保管

林道を歩いていたとき, 1頭のシジミチョウが飛来し, 林道脇の下草に止まった。近づいて本種であることが確認できたので, 採集したものである。

末筆ではあるが, 過去の記録についてご教示頂いた中村具見氏及び土畑重人氏に厚くお礼申し上げます。

(〒713-8122 倉敷市玉島中央町1-20-7)

ツマグロキチョウの異常型

中村 具見

ツマグロキチョウの異常型を、下記のとおり採集しているので報告しておく。

1♀, 真庭郡川上村西茅部・郷原(520m), 4.VII.1996

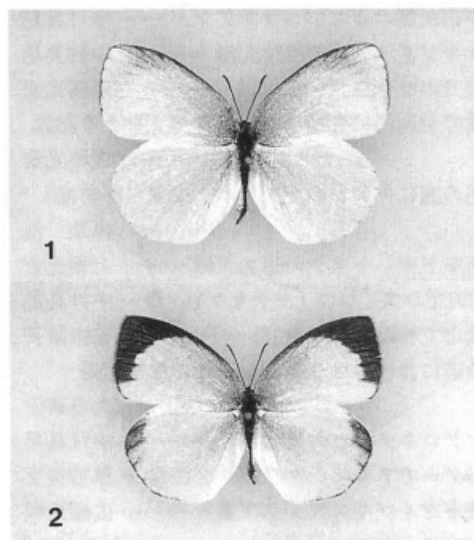


写真1に示したように、同日同所で採集した正常な♀(写真2)と比較すると、♀の特徴である前後翅表の基部から中室付近にかけて粗く散布される黒色鱗は認められるが、前翅の翅頂部から外縁にかけて及び後翅の外縁に発現する黒色部がほとんど消失して、ほぼ翅表全体が淡黄色を呈している。

(〒719-1134 総社市真壁1048)

旭川ダムでアカアシクワガタを採集

藤谷 美文

アカアシクワガタ *Dorcus rubrofemoratus* (SNELLEN VAN VOLLENHOVEN) は、岡山県内では北部から中部まで分布しているが、県中部からの記録は比較的少ないようである。

筆者は息子と旭川ダムでクワガタムシの灯火採集を試み、本種を得たので報告する。

1♂3♀, 御津郡加茂川町神瀬(旭川第一ダム加茂川町側の水銀灯下), 3.VII.1999

当日、午後8時頃から午後9時にかけて、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、ヒラタクワガタ、コクワガタが次々と飛来する中に本種が混じっていたのを採集したものである。当地はクワガタムシの好採集地らしく、筆者ら以外にもクワガタ採りの親子連れが訪れ

ていた。

参考文献

松本吏樹郎, 1996. アカアシクワガタの岡山県における南限記録. すずむし, (130): 16.

山地 治, 1997. 岡山県産昆虫目録-鞘翅(甲虫)目, p.112. ウエスコ, 岡山.

(〒701-1143 岡山市吉宗137)

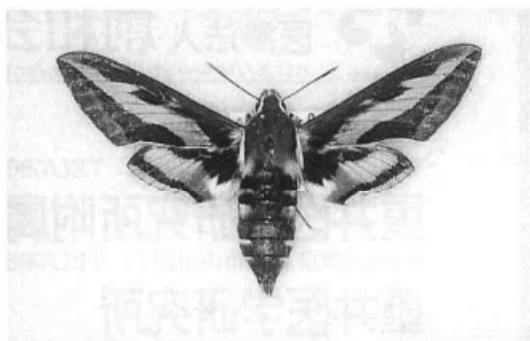
倉敷市でイブキスズメを採集

広瀬 正明

イブキスズメ *Hyles gallii* (ROTTEMBERG) は、井上(1982)によると、北海道、本州、対馬、千島列島、サハリン、朝鮮、シベリア、インド北部からヨーロッパに分布する北方系のスズメガであり、極めて局地的で、しかも単発的にしか採集されていないと記されている。@ニフティイー・りんしフォーラムの情報によると、本州における最も西の記録は福井県のようにである。

筆者は倉敷市において本種を採集した。上記対馬の記録(宮田, 1983)を除けば、関西地方を含めて、西日本では初の記録と思われるので報告する。

1♀, 倉敷市有城634番地(県道倉敷児島線沿いの中古車展示場の照明に飛来), 7.IX.1999



岡山県でも南方系昆虫の偶産例の報告は少なくないが、北方系の種についての報告はほとんどない。上記の分布状況から考えれば、あるいは岡山県内でも細々と生息しているのかもしれない。

なお、標本は倉敷昆虫館で保管されることになった。

参考文献

井上寛ほか, 1982. 日本産蛾類大図鑑, p.601. 講談社, 東京.

江崎悌三ほか編, 1971. 原色日本蛾類図鑑(改訂版), p.244. 保育社, 東京.

宮田彬, 1983. 蛾類生態便覧, p.1451. 昭和堂印刷出版, 諫早.

(〒710-0031 倉敷市有城498-5)

目 次	次		
岡山県初記録のハバチ2種…篠原明彦・奥島雄一	1	呂久町のウラゴマダラシジミ黒化型について	
児島半島のゼフィルス2種の調査記録…中村具見	3	……………中村具見	17
錦海塩田跡地のゴミムシ……………山地 治	7	岡山市におけるハネビロトンボの記録…大島康宏	17
岡山県から採集した甲虫類の記録……………山地 治	10	カラスアゲハの異常型の記録……………内田 光	18
大室海岸で漂着ゴミから採集したゴミムシ類		金甲山山麓のミヤマカラスアゲハ……………中村具見	18
……………山地 治	12	アサギマダラ・春の目撃記録……………中村具見	18
岡山県からのハサミムシの記録……………山地 治	14	倉敷でホソサシガメを記録……………近藤光宏	20
珍しいヤドリスズメバチの記録……………近藤光宏	19	倉敷で全国的にも稀なツマアカベッコウを記録	
吉永町のウスバシロチョウ……………広瀬正明	22	……………近藤光宏	20
岡山県内甲虫類分布記録種の訂正……………青野孝昭	23	自宅の庭にキアシハナダカバチモドキが営巣	
—おとしぶみ—		……………山地 治	21
愛媛県佐田岬でコバネコロギスを採集		ハチモドキハナアブの追加記録……………近藤光宏	21
……………近藤光宏	2	成羽町でウスイロコノマチョウを採集…中村具見	26
岡山県初のキョウチクトウスズメ		倉敷市で初記録の甲虫2種……………安田剛長	26
……………小野 洋・広瀬正明	15	倉敷市におけるウラキンシジミの採集記録	
溪流魚の捕食したカミキリムシについて		……………大島康宏	26
……………大森 斉	16	ツマグロキチョウの異常型……………中村具見	27
岡山県産の珍しい昆虫3種の記録……………澤田博仁	16	旭川ダムでアカアシクワガタを採集…藤谷美文	27
		倉敷市でイブキスズメを採集……………広瀬正明	27



医療法人 創和会

<http://www.shigei.or.jp/sowa/>

理事長 重井 文博

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30 TEL(086)422-3655 <http://www.shigei.or.jp/shigei/>

重井医学研究所附属病院

〒701-0202 岡山市山田2117 TEL(086)282-5311 <http://www.shigei.or.jp/smrh/>

重井医学研究所

〒701-0202 岡山市山田2117 TEL(086)282-3113 <http://www.shigei.or.jp/smri/>

編集後記

とうとう西暦2000年になりました。喜ぶべきことに、この記念すべきミレニアムの年の3月に、本会誌「すずむし」について、第119号以来続いていた発行の遅れをやっとの思いで取り戻すことができました。今後は遅れを出さないよう力一杯取り組んでまいりたいと決意を新たにしておりますので、引き続き皆様の積極的な投稿により手助けを頂きたいと思っております。よろしくお祈りいたします。(KW)

すずむし 135号

2000年3月20日発行

発行者 倉敷昆虫同好会 (〒710-0051 倉敷市幸町 しげい病院8階 倉敷昆虫館内)

Tel. 086(422)8207(直通) FAX. 086(421)1991

振替口座 01210-2-6927

印刷所 サンコー印刷(株) (総社市真壁871-2)